

## 第4章 地域観光地における散策歩行の行動特性

### 1. 本章の目的

第3章では第1から2章のように限られた公園という空間の範囲内ではなく、実際の観光地を対象とし、観光地をゆっくりと過ごすことを目的に行われた交通社会実験の期間を生かし、観光地における散策の実態の把握を行った。ところが、観光地においても、第1章と2章で述べた既定目的を持った歩行のあり方に近い目的歩行の傾向が強い散策と、目的歩行ではないが散策の広がりはないという、2つの散策の特徴があることが明らかになった。そして、どちらの歩行においても、歩行主体が現地の状況から空間情報を得ることで散策を計画していないことが共通の問題であることが分かった。

そこで、第4章と5章では、観光地における散策歩行で、目的歩行の散策ではなく、自由な散策が行われるための案内標識のあり方を明らかにすることを目的とし、地域観光における散策歩行の行動特性と案内標識の働きを把握するための実験を行う。

まず第4章では、第3章の考察で見いだされた、散策が行われる可能性が高いと考えられる千倉町の里山遊歩道周辺を実験対象地として、被験者を用いた散策歩行実験を行い、利用追跡調査することで、散策歩行を詳細に分析する。

### 2. 利用追跡調査

#### 2.1. 調査目的

地域の観光地において散策歩行をする中で、歩行者が現場で獲得する情報と、散策行動の変化・広がりとの関係を詳細に把握することを目的とする。

#### 2.2. 調査概要

##### 2.2.1 調査対象地

社会実験期間を利用したアンケート・インタビュー調査では、千倉町「里山遊歩道」は、富浦町の「とみうら遊楽散歩道」に比較すると、多様な散策が行われる可能性が高いことが分かった。このことは、第3章にも述べているように、富浦町のように遊歩道自体がループ状で閉じた形となっているのではなく、構成するコースも3種類と多様であることに加え、小さな小道が複雑にネットワーク状に構成されているため、多様な経路選択が可能な地形となっていることが要因と考えられる。

本調査の目的は、案内標識の分かり易いさや、ルートを正しく歩行することが目的ではないため、調査対象地は、千倉町「里山遊歩道」周辺が適切であると判断した。

### 2.2.2 期間の設定

期間は、2004年6月～8月に行われた。

里山遊歩道では、主に田園地帯ののどかな風景が魅力の「露地花の里コース」と、田園地帯ののどかな風景に加え、森林浴が魅力の「照葉樹の森コース」、さらに、砂浜や磯などが魅力の「汐の香コース」によって構成されているが、どのコースも平均的に魅力を体験できる季節として、初夏が適切な時期であると判断した。

この時期は、南中時は比較的暑くなるため、気候に影響されないように、実験は10時から12時と、15時から17時の時間帯に分けて行った。

### 2.2.3 被験者選定 (表4-1)

被験者の選定は、第3章のアンケート調査の分析によって、南房総地域では幅広い世代の観光客が訪れており、世代による散策の特性も異なることが示されたため、世代と性別の偏りが無いことを考慮して、6名の被験者を決定した。また、被験者は現地の情報に関して同じレベルにそろえるため、初めてその地を訪れるという条件で選定した。

区分	番号	被験者	性	年代	日	時	天候	実験者の関係
青年	1	被験者A	F	20代	2004/7/4	15:00-17:00	晴れ	友人同士
	2	被験者B	F	20代	2004/7/4	10:00-12:00	晴れ	友人同士
	3	被験者C	M	20代	2004/6/20	15:00-17:00	時々曇り	友人同士
壮年	4	被験者D	F	50代	2004/8/8	10:00-12:00	晴れ	職員と学生
	5	被験者E	M	40代	2004/7/24	15:00-17:00	晴れ	父親と子
	6	被験者F	M	40代	2004/7/24	10:00-12:00	晴れ	教員と学生

表4-1：実験基礎データ

## 2.3. 調査実験概要

### 2.3.1 実験方法

自由に散策する中で、被験者の散策行動の変化・広がり把握することを目的としているため、実験では、教示によるタスクによる制限は極力少なくし、自由な状態で散策を行うように配慮をしている。そのため、歩行の範囲を案内標識を設置した地域に限定せず、時間の範囲のみを設定して、自由に散策することに重点を置いた。

具体的には、観光の拠点となる場所（道の駅千倉：潮風王国）をスタートとして、観光用手持ちの地図(図4-1)と、現地に設置されている案内標識を手がかりに、2時間自由に散策しスタートに戻るということがタスクである。そして、被験者には、極力考えていることを発話するように依頼している。2時間という時間設定は、第3章で散策歩行の実態を調査した際に、望ましい散策時間であるという結論を得ていたことから決定している。

#### ① 記録方法

実験者は被験者1名に対し3名で構成し、被験者の行動の変化を逐次記録する者と、被験者の隣に同行し、発話を促進する者として役割分担をしている。

記録方法は、被験者に随行して被験者の視界を記録する者と、その周辺環境を後方から記録する者として、2つの視点から2台のVTRにて記録し、補足的に被験者の会話や仕草などから注意を引いていると思われる物事をデジタルカメラにて撮影した。被験者の発話は、音声レコーダーにて記録した。VTRでは、前方カメラは広角レンズを使用し、おおそ被験者が注視できる範囲をカバーすることとしている。

また、2時間の散策の後に、30分程度のヒアリングを行っている。デジタルカメラで記録した被験者の行動の特徴的なシーンを見返しながら、散策の意図と、経路選択の行動の理由を聞き出し、観察による行動分析では抽出できない被験者の意識に関わる情報を抽出している。

#### ② 視覚情報の抽出方法

実験では、ヘッドマウントカメラを被験者に装着することも検討したが、被験者が自由に散策することを阻害する可能性も考えられるため、なるべく被験者が実験を行っていることを意識せず、散策観光を楽しむことに集中することを優先して、被験者に何らかの負担になるようなことは避けた。

被験者との会話や、行動を観察する中で、被験者

に随行する実験者が被験者が視界でとらえている視覚的対象を判断し、ビデオカメラにて記録をしている。さらに後部から、実験の状況の全体像が分かる範囲をもう一台のビデオカメラで記録しているため、これらを合わせると、おおむね被験者の行動に関わる視覚環境に関する情報は抽出できている。

### 2.3.2 実験の条件設定

第3章のアンケート調査では、地域観光地を1人で長い時間を散策することは少ないことが明らかになっている。(参照：4.2.1(1)①) ほぼ2名以上でコミュニケーションを楽しみながら歩行することが多い。(参照：4.2.1(1)②) 今回の実験では、被験者からより多くの情報を得るため、感じたことをなるべく多く発言することを促し、その場で被験者が認識した内容を把握することを考えている。そのため、被験者と随行する実験者は、被験者とともに散策観光をしているかのような自然なコミュニケーションを取り、散策に関する会話が促進することを心がけた。

また、実験対象地域は、案内標識が完全に設置されていないため、手持ち地図から空間情報を得られるようにすることに加えて、実験者とのコミュニケーションから、経路選択の手がかりとなるような情報が得られることも行っている。つまり、被験者は道に迷うというような不安感はなく、散策を楽しむ事に集中できる環境を用意することで、どのように散策を展開していくかを見いだすことを可能にしている。

そのため、被験者に随行する実験者は、主に次のような項目を留意して実験を行っている。

- ・迷って困難な状況になったら解決のためのサジェスションを行う。
- ・周囲に注意を喚起できるようにつまらない状況になったら発話をする。
- ・経路の選択やプランの構想時点では散策主体の判断を促す。

また、このような条件設定の意図から、実験者は被験者と自由に会話ができるような相手を選択している。(表4-1)しかし、それぞれの人間関係は様々であり、一律の関係性に設定することはできていないが、実験の目的は達成できる状況を形成している。

### 2.3.3 教示内容

教示は、散策開始地点として設定したこの地域の観光拠点である潮風王国(図3-7)の総合案内標識の前で、以下の内容を書面で伝え、口頭で補足説明を行った。

「この実験は、(被験者名)さんに自由に散策して頂くものです。時間は2時間です。終了時間頃になるべくこのスタート地点に帰ってくるようにしてください。疲れたと感じられましたらいつでも小休止をお取り下さい。敷物を用意しています。

散策の間、その様子を、後方からビデオカメラ、デジタルカメラで撮影し、会話をマイクで録音させていただきます。これらの記録によって、散策行動がどのように行われるのかを明らかにしたいと考えています。これらの記録は、ご本人に無断で研究グループ以外に出すことはありませんので、ご理解、御協力をお願い致します。

(被験者名)さんをお願いする事項が2つあります。まず1つ目は、散策の経路についてです。経路については、(被験者)さんが行ってみたいと思う経路を自由に決めてください。お手元の地図に示されていない道を歩くことも自由です。経路は歩きはじめる前に決めても、歩きながら決めても、途中で変更しても結構です。ただし、明らかに地元の方の迷惑になるような場所の通行は避けて下さい。また、だいたいお手元の地図に示された範囲でお願いします。

もう1つのお願いしたい事項です。散策中に気になったもの、何か少しでも感じたことなどがありましたら、声に出してください。面白いと思ったものごと、気になったものごと、あまり良くないと思ったものごとなど、何でも結構です。感じたことはで



きるだけ声に出してください。よろしくお願いします。

以上がお願いする事項です。分からない点はございますか？もし不明な点がございましたら、実験中でも結構ですので、いつでもお聞き下さい。」



図 4-1：配布した手持ち地図

### 3. 調査分析

分析は、歩行線形の分析と、散策の際の発言に着目したプロトコル分析によって行う。本章では、特に歩行の線形と、その散策内容に着目した分析を行うが、プロトコルを整理することで得られる内容も本章の考察に関連するため、分析に用いた方法と用語の整理をしたのちに、分析を進める。

#### 3.1. 散策の行動・行為に関する用語の整理

##### 3.1.1 プロトコル分析の単位

プロトコル分析における分析単位は、散策歩行において、被験者の歩行途中になされた、散策に関連すると思われる行為や発言が行われたシーンを、散策イベントポイントとして抽出し、一つの分析単位とした。この単位の設定は、いわば、散策における思考が行動に表れたシーンを、単位として切り出す

事と同じ意味を持つ。<sup>\*1)</sup>

それらの抽出した散策イベントポイントに対し、その行動が行われた「経過時間」、行動の要因となった「視覚情報」、散策のプランを構想したときに期待している「プランイメージ」、そこで行われた「散策行動」、および発話として「被験者発話」「実験者発話」「ヒアリングでの発話」の項目で整理し、時系列にまとめた散策プロフィールシートを作成した。

発話では、現場で発話された内容と、後にヒアリングで語られた内容を併記することで、そのシーンで話されなかった被験者の行動の背景にある意識を分析することを意図している。

「視覚情報」「プランイメージ」に関する分析は、第5章で詳細な分析を行う。

##### 3.1.2 空間を指示する言葉の定義

散策プロフィールシートをまとめるに当たり、行動の要素として現れてくる多様な空間を示す言葉を整理し、次のように定義した。(図 4-3)

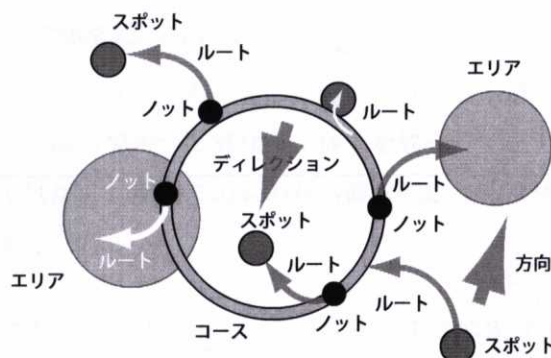


図 4-3：空間情報の図式

##### ① エリア

散策対象地の中で、相対的に面的な広がりがある場所を指す。

##### ② スポット

散策対象地の中で、相対的に面的な広がりが少ない場所を指す。

##### ③ コース

散策対象地の中で、「露地花の里コース」のように、もともと設定されている散策のための道を指す。










被験者 A ポイント	行動内容	被験者発言	実験者発言	ヒアリング	被験者 B ポイント
1 0:00:50 50 sec 視覚情報 案内標識 プランイメージ 海コース	案内標識を見てプランを確認する。 ルー1確認	かわいい、でも見やすい。 どうしよう 花って咲いてないですね？じゃ、道の香コ ースってことはこっちですね？	どこからいきますか？	散策のテーマは、海岸沿いが面白いから、何となくそっちに下りてみたいかなと、特にここを見たい、というのはない。 最終到達点は、50分コースって書いてあったんで、最後まであの香コースをたどって、そこから戻るかなと。 花はないよって話になって、森もあんまり気にならなかったから。	1 0:00:50 
2 0:01:30 50 sec 視覚情報 手持ち地図 プランイメージ 海コース	手持ち地図を見て経路を確認。 ルー1選択	これ、間違ってますか？と聞えず行ってみよう。かなり方向感覚なんです。		まず最初、道がわからなくて、進歩道の場所がわからなくて。 2 0:01:30 	
3 0:02:30 150 sec 視覚情報 海沿いの道 プランイメージ 海コース	手持ち地図を見て確認 ルー1確認	かなり判れてますかねえ、		3 0:02:30 	
4 0:03:40 220 sec 視覚情報 海沿いの道 プランイメージ 海コース	地図を見ながら確認する ルー1確認	道もかしてないですね？えーっと、海があつて、でも海岸沿いですよね？もどります		4 0:03:40 	
5 0:07:00 正評価				6 0:08:00 	
7 0:10:00 600 sec 視覚情報 海岸の道 プランイメージ 海コース	正評価	あ、海だ。サーファーとかがいっぱいいますね		7 0:10:00 	
8 0:11:00 660 sec 視覚情報 手持ち地図 プランイメージ 海コース	地図を見ながら確認する ルー1確認	何があるんでしょう？今日の道ですかね。 七瀬海岸？	道の香コースって何があるんだろう？	8 0:11:00 	

図4-2：散策プロフィールシート例 被験者 A

#### ④ ルート

散策対象地の中で、エリアやスポット、コースなどへ接続する道を指す。

#### ⑤ ノット

散策対象地の中で、ルートやコースが結節される交差点や分岐点を指す。

#### ⑥ 方向

散策対象地の中の、エリアやスポット、コースの特定の要素に対し、現在の場所から最短距離で示す方向を指す。

#### 3.1.3 行動・行為を示す言葉の定義

歩行を実行する際に、行われる行為の流れを次のように整理した。

「検討」→「確認」→「選択」（「探索」）という流れがあることを標準的に捉えているが、選択に至るまでに、検討を行わずに選択する場合もあれば、確認をせずに選択する場合もある。

##### ① 検討

エリア・スポット・コース・ルート・方向が検討の対象となり、これから散策を進めて行くに当たって、認知した空間情報をもとに、計画をする行為である。

## ② 確認

エリア・スポット・コース・ルート・方向に加えて、現在地・現在時間・間隔が対象となり、認知した空間情報をもとに、現地の空間情報を照合する行為である。

## ③ 選択

エリア・スポット・コース・ルート・方向が選択の対象となり、検討し、確認された対象に対して行動を決定する行為である。よって、この選択行為は、第1, 2章で述べた「目的不確定型経路選択」と同様の選択行為である。一方「目的確定型経路選択」は、目的の確認をするだけで経路を選択している場合もあるため、選択行為よりも確認行為として捉える。

## ④ 探索

上記の選択をしようと意志を決定しているにもかかわらず、その対象が不明であるため選択ができず、対象を探す状態のことを指す。これも、エリア・スポット・コース・ルート・方向が探索の対象となる。

## ⑤ 休憩

①～④の行動・行為がなされない状態を指す。

## 3.1.4 感情表現を表す言葉の定義

被験者の散策での感情表現は以下の2つに整理できる。

## ① 正評価

歩行を行った際に、その場所での体験した内容に関して、肯定的な評価を指す。

## ② 負評価

歩行を行った際に、その場所での体験した内容に関して、否定的な評価を指す。

ルート選択に関する「疑問」も散策歩行では多く見られ、感情表現の一つの要素として分類されることが適切だと考えられるが、今回の実験では、実験者が同行して会話を引き出しながら散策が展開していくため、ルート選択時の疑問は、この会話によっ

て解決する場面も多い。また、今回の調査の目的が、ルート選択における問題解決に関することではないので、考察の対象として取り上げる必要はないと考えている。よって、「疑問」という状態は、そもそも、その場所に対する肯定的な評価ではないため、分析においては負評価の一つとして整理している。

## 3.2. 現場情報の類型と定義

歩行者は、様々な現場情報を得て散策を行っている。分析を行うに当たり、このような情報がある程度整理して考察を進める必要がある。そこで、情報を、その情報を伝える媒体と、伝える内容によって整理をする。

## 3.2.1 媒体による整理

## ① 案内情報

案内標識や、手持ち地図など、何らかの情報を伝達するというように、意図的に作られた媒体によって、間接的に伝わる情報である。

## ② 空間情報

歩行主体が、その場の空間から受け取る情報である。案内情報とは異なり、何かを媒介して伝わるのではなく、空間そのものから直接的に伝わる情報である。

## 3.2.2 内容による整理

空間情報に関する整理は既往研究で散見される。大野らは<sup>2)</sup>空間情報を「方向」「要素的特徴」「表面的特徴」「空間的特徴」と分類し、徐らは<sup>3)</sup>「空間位置」「空間要素」「空間表面」「空間形態」「空間記憶」と分類している。ここでは、これらを参考にし、実験の中の発話などで、経路選択時に求めている情報内容をもとに、以下のように定義する。

## ① 魅力情報

その地域の自然や、特産物、民家の町並みなど、現場で体験することができる様々な魅力に関する情

報である。さらに対象によって次のように分類される。

エリア魅力情報・スポット魅力情報・コース魅力情報・ルート魅力情報

## ② 地図情報

観光対象地の地形や交通網、特徴的な施設などの地理的な特徴を地図上に示した情報である。扱う情報の広さによって、次のように分類される。

全体地図情報・エリア地図情報

## ③ 方向情報

散策対象地の中の、コース内の特定の要素に対し現在の場所から示す方向に関する情報である。指示する対象によって次のように分類される。

エリア方向情報・スポット方向情報

## ④ 間隔情報

現在地から目的とする場所までの時間や距離などで測ることができる間隔に関する情報である。これも、内容によって次のように分類される。

エリア間隔情報・スポット間隔情報

## ⑤ 接続情報

歩行の目的となっている対象地に対してどのように空間が接続しているのかを示す情報である。接続する内容によって次のように分類される。

コース接続情報・ルート接続情報

## ⑥ 現在地情報

歩行の目的となっている対象地に対してどのように空間が接続しているのかを示す情報である。接続する内容によって次のように分類される。

コース接続情報・ルート接続情報

### 3.3. 散策歩行展開の分析方法

散策プロフィールシートをもとに、散策に関連する行為を整理すると、それぞれの行為は、その内容から、関係性の高いまとまりとして捉えることが出来る。これらの一連の行為は、被験者が散策を計画して成立している歩行の場合もあれば、特に検討することなく歩行が成立している場合もある。この様な、一連の行為を構成する一つの要素を、プランと

呼び、分析の単位とする。

そして、被験者が実際に歩行したルートを地図上にプロットし、プロトコル分析で抽出したシーンのイベントポイントやプランを、このルート上に配置し、地理的な関連が分かるようにする。

さらに、プロトコル分析によって、被験者が構想したプランの目的地を地図上にプロットし、散策の歩行線形だけでなく計画の特徴を明らかにし、散策歩行の類型化を目指して考察を進める。

#### 3.3.1 散策歩行におけるプランの整理

散策を構成するプランは、散策の目的の強さによって2つの傾向性がある。すなわち「目的確定型経路選択」の傾向性が高いプランと、「目的不確定型経路選択」の傾向性が高いプランである。ここでは、それらを以下に説明を加えているように「明確なプラン」「曖昧なプラン」とする。

また、日色は<sup>\*)</sup>、歩行プランが連続して、系列なことを示している。本研究でも、このことを参考にし、2つ以上の性質が異なるプランが連続している場合を、プラン系と呼び、分析の要素とする。

#### ① 明確なプラン (Plan-a : Pa)

このプランは、明確に歩行の目指す目的があり、目的が達成できたプランである。今後は、このあり方を示すプランを、プランaを略してPaと呼ぶこととする。

#### ② 曖昧なプラン (Plan-b : Pb)

このプランは、歩行の明確な目的はなく、曖昧であり、達成に関しても曖昧に行われる。目的に関するこだわりが低いプランである。または、明確に目指す目的があったとしても、断念する場合もある。この場合も、断念してしまうほどであるから、歩行の目的に対するこだわりは、それほど高いものではない。このあり方を示すプランを、プランbを略してPbと呼ぶこととする。



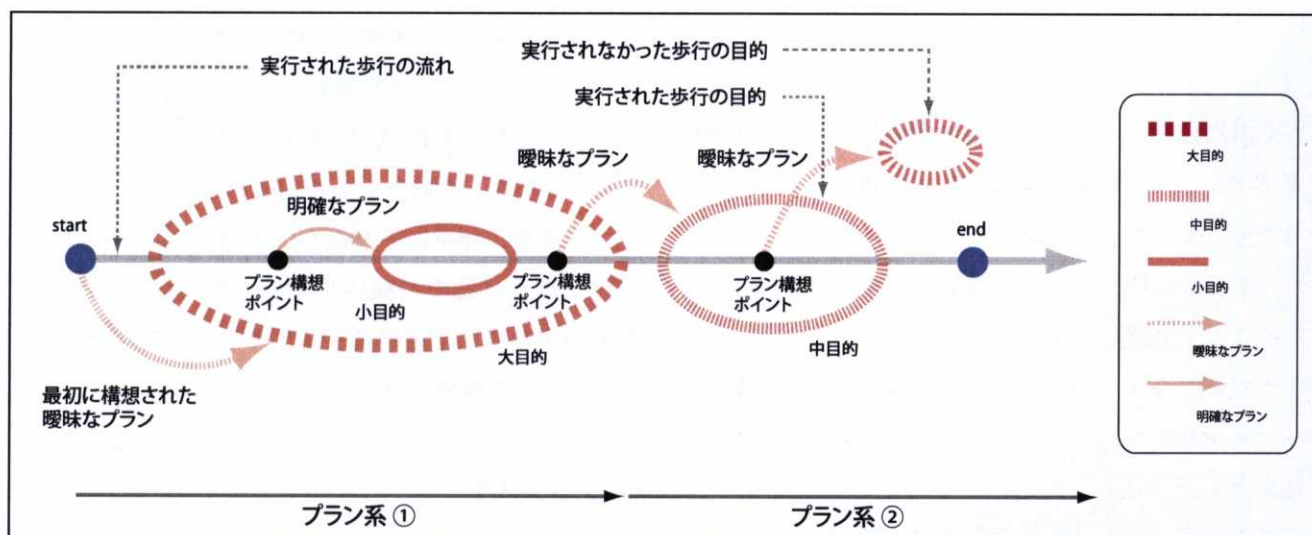


図 4-3：散策プラン基本構成図

### 3.3.1 散策における目的の整理

散策を計画する際には、何らかの形で目的の設定が行われている。この目的を、対象としているエリアの大きさによって、次のように整理する。

#### ① 大目的 (Destination-Large:DI)

目的の対象として大きなエリアが対象となっているもので、散策開始時点で構想される傾向が高い。この様な目的のあり方を示す場合、Destination-Large を省略して DI と呼ぶこととする。

この目的の場合の歩行プランは、多くの場合は、曖昧なプランである Pb となる。しかし、強い動機があることで、Pa となることもある。

#### ② 中目的 (Destination-Medium:Dm)

中規模の大きさのエリアを歩行の目的としたもので、散策途中で現場情報をもとに構想される傾向が強い。この様な目的のあり方を示す場合、Destination-Medium を省略して Dm と呼ぶこととする。

この目的を持って歩行するためのプランは、曖昧なプランである Pb にもなり、明確な Pa にも同等になる可能性がある。

#### ③ 小目的 (Destination-Small:Ds)

目前にある空間情報を得ることによって、即座に構成される小さな目的を示す。散策のどのような場

面でも、現場情報をもとに、直ぐに構想される傾向が高い。

多くの場合は、明確なプランである Pa となり、まれに曖昧な Pb になる。

### 3.3.2 散策プランと目的の図式化

被験者の散策の歩行線形を地図上にプロットし、さらに、歩行プランと歩行目的との関係を地図上に示すことで、これらの関係の分析を試みる。それらは非常に複雑に関係が絡み合ったものとなる。そこで、それらを図 4-3 に示すような簡略な図式整理し、散策プランと散策目的との関係を明らかにした。

## 3.4. 調査結果と歩行プラン構成に関する分析

これまで説明を加えてきた実験調査の結果の概要を示し、被験者 A～F ごとに、散策の展開と歩行プランの構成に関する分析を行う。

### 3.4.1 被験者 A の歩行プランに関する分析

#### (1) 散策歩行概要

被験者 A は、総合案内標識を見ながら、季節的に花が咲いていないという判断から、汐の香コースを選択し、実験者に方向を尋ねながらルートを選択している。

手持ち地図を見ながら歩行を進めているが、地図との整合性がとれないまま歩行を進め、海沿いと



いうことからルートを選択しているが行き止まりになってしまう。

案内標識を見つけ、手持ち地図と見比べながら照葉樹の森コースを検討するが、汐の香コースをそのまま歩行することに決定。

一度海岸に降りられないか確認し、他の人が降りていることを確認した後に実行する。

「つのや」という店に入り、その後現在位置を確認。手持ち地図上で店の名称とあわせて現在地の把握を使用とすることができない。

さらに進んだところで案内標識を手がかりにコースを検討し、魚っちゃん千倉という施設を見て戻ること決定。

施設内で予定通り時間を費やし、終わったとこで

戻ることとするが、実験者の意見を参考に、同じコースを戻らず近いルートを選択。

畑ののどかな雰囲気や、神社の境内に少し立ち寄るなどするが、起点へ戻るための方向となっている。

予定通り、海岸に下りたり、養殖場をみたりしただけでなく、途中の商店や神社にたちよったりと、散策の中に少しではあるが広がりは見いだせる。しかし、大きな展開は見いだせない。

## (2) プラン分析

散策に関連する行為を整理すると、被験者Aの散策は8のプランで構成されていることが分かる。(図4-4) これらのプランについて分析をする。

LP	Time	Plan1	Plan2	Plan3	Plan4	Plan5	Plan6	Plan7	Plan8	検討	確認	選択	評価	休憩	行動対象	行動内容・発言
1	0:00:50									検討					ルート	案内標識を見てプランを構想する。
2	0:01:30											選択			ルート	手持ち図を見て経路を選択。
3	0:02:30										確認				ルート	手持ち地図を見て確認
4	0:03:40										確認				ルート	地図を見ながら確認する
5	0:07:00												正評価		花小屋	「すごいかわいいですね。」
6	0:08:00										確認				現在地	手持ち地図を見て現在地を把握。
7	0:10:00												正評価		海岸	「あ、海だ。」
8	0:11:00										確認				ルート	地図を見ながら確認する
9	0:11:00											選択			ルート	横の道に入り、近くまで行って確認する
10	0:13:30												負評価		海岸の国道	元に戻って進行する。
11	0:13:50												正評価		屏風岩	「屏風岩ですね。」
12	0:15:00												負評価		防波堤	海が見えず残念との実験者の会話「ですね。」
13	0:17:00												負評価		手持ち地図	地図上で漁港を見つけるが、実際は見えない。
14	0:18:00									検討					コース	地図を見ながら、距離と時間を計算するが、結局よく分からず。
15	0:20:00												正評価		景色	「(海を見て) すごいですね。」
16	0:21:00												負評価		出入り口	「あへ、入れない。」
17	0:23:00												負評価		出入り口	「下りてみようかな。なにやってるんですかね。」(降りられず。)
18	0:24:00											選択			ルート	降りられそうなポイントを探しているうちにぼんぼりを見つける。
19	0:28:00												正評価		出入り口	海岸に下りて、海藻や魚を見る
20	0:29:00												正評価		岩場	「サザエとかいないんですかねえ」
21	0:35:00												正評価		看板	「進入禁止だったんですか？」(実際は行けていた)
22	0:39:00												正評価		漁港風景	「あ、釣りしてる。餌ねでる！」
23	0:42:00										確認				ルート	ウォッチング千倉から内陸へ入る道をみてルートの確認をする。
24	0:43:00												負評価		研究施設	「これなんだろう？」
25	0:44:00											選択			スポット	店舗の「つのや」に入り、滞在、誰もいない
26	0:54:00										確認				ルート	地図上で現在地を探す
27	0:56:00										確認				現在地	「これがちょうど平磯漁港ってところですか？」
28	0:58:00									検討					プラン	気づかずサインを通り越して、戻って検討。
29	1:01:00											選択			スポット	そのままウォッチング千倉へ入る。
30	1:25:00									検討					ルート	案内標識があったところを手がかりに、降り道を検討する。
31	1:27:00												負評価		ビニールハウス	「ああ(実験者の話に対して、)
32	1:29:00												負評価		看板	「ああ(実験者の話に対して、)
33	1:30:00												正評価		山の遠景	「結構簡単に登れそうな山ですね。」
34	1:31:00												正評価		提灯	「ここも御神輿が通るんですかね？」
35	1:32:00											選択			ルート	「字路をそのまま左折
36	1:32:20												負評価		看板	「さびれた感じですね」
37	1:33:00												負評価		提灯	「提灯ってもっと町で感じする、。」
38	1:35:00												正評価		畑	「枝豆ってこんな花なんですか？」
39	1:37:00												正評価		ジャガイモ	「じゃがいもですかねえ」
40	1:39:00												正評価		ひまわり	「きれいですよね〜」
41	1:39:30												正評価		看板	「あ、房州ラーメン」
42	1:40:00												正評価		枝豆	「やっぱり枝豆だ。」
43	1:41:00												正評価		アロエ	「それっていいですね。」
44	1:44:00												正評価		倉	「すごい建物だ。千倉の倉は、倉なんですか？」
45	1:47:00											選択			スポット	諏訪神社に寄り道して、様子を眺める
46	1:50:00										確認				現在地	「結構戻ってきたんですか？」
47	1:51:00												正評価		看板	「あああ〜沖崎に行っただよ(沖崎の看板)
48	1:55:00										確認				現在地	地図を見て確認
49	1:55:00												正評価		山車	「きれいですね。」
50	1:57:00											選択			ルート	山車を避けるために細い道へ左折
51	1:58:00											選択			ルート	どっちに行こうか迷い、実験者の言葉で右
52	1:59:00											選択			ルート	瀬風王宮が見え、引き返す。
53	2:00:00											選択			ルート	道があまりに細いが選択。

図4-4：被験者A 散策構成行為整理表



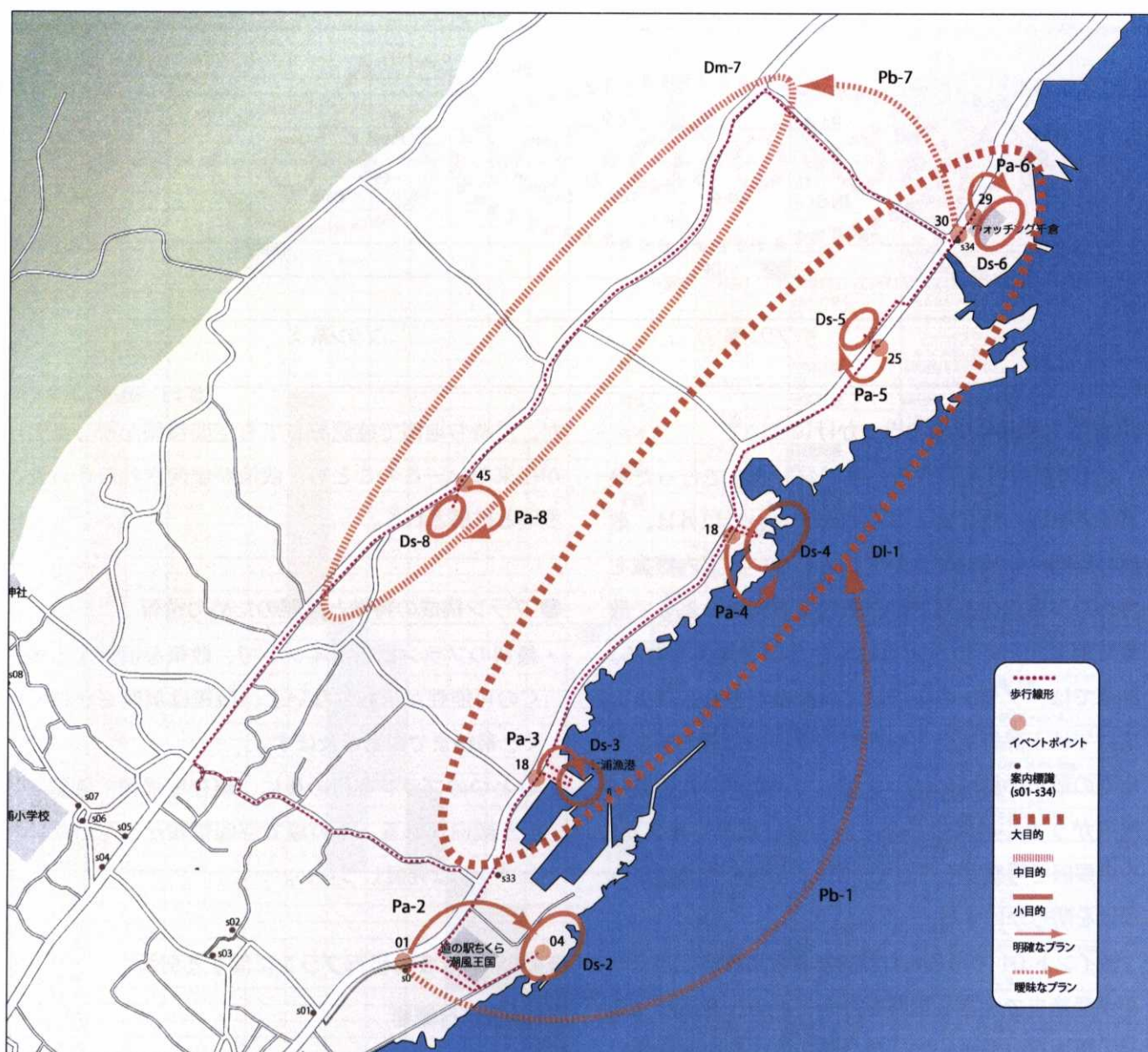


図 4-5：被験者 A 散策マップ

## ① プラン構成に関して

被験者 A は散策開始地点 (1) にて海沿いを歩くというプラン(Pb-1)を持つ。現場情報を把握しきれず、誤ったプラン(Pa-2)を実行し、戻ってくる。その後は、海沿いのコース上で、特に検討せずに防波堤へと向かうが、特に何もなく戻る。(Pa-3) 海岸に降りれる箇所 (18) を見つけ、磯場を歩くというプランを実行し (Pa-4)、商店を見つけ (25) 店の中を見るプランを実行 (Pa-5)、施設を見つけ (29) その中を歩くというプランを実行 (Pa-6) している。

その後、戻るためのプランを (Pb-7) 分岐ポイント (30) で構想し、途中で神社を発見 (45) し、境内を見るプランを実行 (Pa-8) する。

## ② プラン系列に関して

これらのプラン構成を図式に整理すると、散策は 2 つの系で構成されている事が分かる。(図 4-6) 一つがポイント 1 から 29 までのプラン系で、もう一つが 30 以降のプラン系である。

全体の構成は非常に単純で、Pb-1 の実行の間に、小さなプラン Pa-2、Pa-3、Pa-4、Pa-5、Pa-6 が実行されており、大きなプランへの影響はなく進んでいる。もう一方も同様に、Pb-7 の実行の間に、小さなプラン Pa-8 が実行されている。

プラン同士の関係は希薄であり、散策の展開が少ないことが分かる。



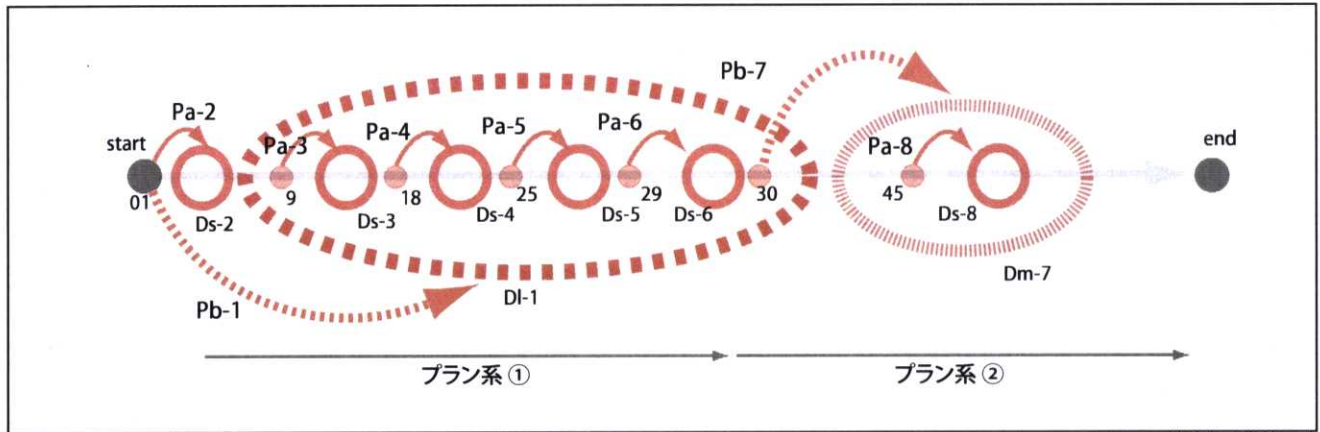


図 4-6：被験者 A 散策図式

### ③ プラン展開のためのきっかけについて

4 度の検討行為のうち、ポイント 30 で行った検討（実験者の助言によるものが大きい）以外は、散策の展開に効果的に生かされていない。案内標識を含めた現場情報をもとに、その場の判断によって散策を展開することが成功していないと考えられる。評価では、プラン系①では、負評価が多く、プラン系②では正評価はあるものの、帰りの状態であるため次の散策の展開にはつながっていない。この様に散策がうまく展開されたと云えない状況であるが、その要因を考察することで、プラン展開のためのきっかけを明らかにする。

ポイント 01 で得られた情報をもとに構想したプランが最後まで大きな影響を与えている。発話を見ると、露地花の里コースは花の季節ではないから駄目というイメージを得てしまい、そのコースではない方向というプランがなされている。露地花の里コースは、実は花の季節ではなくてもその周囲には田園地帯が広がるという地域の魅力があるが、その魅力情報が伝わらなかったため散策の広がりが少なくなっている。

結果的に、海沿いを歩くというプランのみに限定されている。このプラン系①では、この様に積極的にプランがなされているわけでもなく、さらに、興味を持った事物に対しても、その場に近寄れないという状況もあり、負評価の要素が多くなっている。

また、Pa-2,3,4,5 の小さなプランが実行なされた後、ポイント 27 で現在の地情報を確認し、Pb-1 で対象とするエリアとの空間的関係性をとろうとしている

が、手持ち地図で確認をしても空間情報を得ることが出来ない。このことも、散策が展開されなかった要因と推察される。

### ● プラン構成の特徴と展開のための情報

- ・最初のプラン構想ポイントで、散策を展開する多くの可能性が伝わらないと、散策は展開されにくく、最後まで影響を及ぼす。
- ・ひとつのプラン実行の後に、現在地情報の確認を行う傾向がある。その場で空間情報が得られないとプランは発展しづらい。

### 3.4.2 被験者 B の歩行プランに関する分析

#### (1) 散策歩行概要

被験者 B は総合案内標識の前で、手持ち地図を見ながら歩行の計画を考える。特に積極的にプランを構築せず、とりあえず南房千倉大橋がある方向へと、おおよそのエリアの決定し歩行始める。しかし、すぐに花の小屋を目にし、そちらに向かう。

さらに高塚山の写真を掲示した案内標識を眼にし、高塚山を目指すことに決定する。高塚山に登るまでに、何度か他に興味を引く対象があるものの、そのまま高塚山に登る。

降りたところで、案内標識を眼にし、来た道とは異なるルートを選択する。選択する段階で、既定のコース上にいることを確認し、想定していたコースに沿って進むこととする。選択したコースで周囲に広がる田園地帯が終わり、古い民家の街並みに入ったところで、幅の狭い道に出会い、その道の魅力に



LP	Time	Plan1	Plan2	Plan3	Plan4	Plan5	Plan6	Plan7	Plan8	Plan9	Plan10	Plan11	Plan12	検討	確認	選択	評価	休憩	行動対象	行動内容・発話
1	0:03:00																		ルート	案内板と手持ち地図を見てどこに行くか検討。
2	0:03:20															選択			ルート	方向を確認し、潮風王国から外へ出た。
3	0:03:30																負評価		花小屋	「そっかあ、お花がなかったら、」
4	0:06:00															選択			スロット	熊鷹山の森コースの山頂を目指すことに決定。
5	0:07:43															選択			スロット	山車の方へ回り道（左折）をした。
6	0:08:50															選択			ルート	もとの道に戻らず、真っすぐ行くことにした。
7	0:10:45																		地層	「かっさい、ワニ、イグアナみたい。」
8	0:12:40																		門の飾り	「みんなつけてるね。」
9	0:12:50															選択			ルート	正面に案内標識を発見し、ルート選択。
10	0:13:15															選択			ルート	正面に案内標識を発見し、ルート選択。
11	0:13:20																		ちょうちん	「良いなあ。」
12	0:13:40															選択			ルート	正面に案内標識を発見し、ルート選択。
13	0:14:56																		高塚不動尊看板	「あ、あれじゃん、高塚山不動尊。」
14	0:15:01															選択			小学校	案内標識の左側の道へ進む。
15	0:15:10																		石碑	「鳥山先生誕生地？すごい人なのかな？」
16	0:16:15															選択			小道	もとへ戻らずに細い道を通る。
17	0:17:10																		煙の仕掛け	「あれなんで缶をさしているんだろう。」
18	0:17:30																		岩	「すごいねこれ、すごいすごい」
19	0:18:00																		地蔵	「これなんかすごいなあ、」
20	0:19:40																		石垣	「あそこ石、ちょっとかつかよくない？」
21	0:20:20															確認			間隔確認	案内標識をみて、山頂までの時間を確認した。
22	0:20:30																		煙	「ほんと花がきれいなのかな？」
23	0:21:30															確認			間隔確認	案内標識、看板をみて山頂へ行く。
24	0:23:00																		洞窟	「何か物空想みたいだよ。」
25	0:23:50															確認			ルート	「これ神社？よし。」
26	0:24:00																		田園風景	「きれい、全部海じゃん。なかなかすてき。」
27	0:25:30															確認			ルート	遊歩道を見て不安になり、実験者に確認。
28	0:25:50																		山道	「わー！すごいこれ。」
29	0:28:15															確認			間隔確認	「山頂って結構まだまだかな？」
30	0:32:51																		鳥居	「あ、鳥居がある。来たね。」
31	0:33:50																	休憩	ベンチに座って休憩した。	
32	0:46:40																		鳥居	「あった鳥居」
33	0:46:50															選択			エリア	山頂までさらにかかることが分かり、下山。
34	0:48:10																		鳥居階段	「鳥居に近付いて様子を見る。」
35	0:49:45															選択			ルート	下山開始。
36	0:50:30															選択			エリア	もと来た道から戻ることになった。
37	1:09:50															検討			ルート	山道から出たところで地図を見て検討。
38	1:12:30															選択			コース・ルート	案内標識を見つけ、右折した。
39	1:14:30																		小学校	「建築家がやったっぽい。」
40	1:18:30															選択			ルート	案内標識を指差して確認。右折。
41	1:20:00																		案内標識	「これが、千両万両。」
42	1:21:00																		竹囲い	「道ないじゃん。あ、おぼちゃんいる。」
43	1:23:00																		農家	「挨拶、竹囲いの中身、覆い、千両について」
44	1:27:00																		ソテツ	「ワ、なにあれ、ソテツか。」
45	1:27:40															確認			ルート	案内標識を発見、先の経路、時間を確認。
46	1:28:00																		煙	「歩いたらどうなるのかな？」
47	1:31:20															選択			エリア・ルート	幅の狭い道を見つけ、そちらに進む。
48	1:31:40															確認			ルート	ちょうちんのある通りを見つけて指指。
49	1:33:30															選択			ルート	海に向かって進める道をさがす。
50	1:33:40															確認			ルート	そこ行けるかな？
51	1:34:55																		橋の遠景	「あれだったらいや、情緒がない。」
52	1:35:10															選択			小道	「こっちの道の方がいいね。」
53	1:36:00																		花	「きれい。グラデーションがかっこいい。」
54	1:36:10																		ドーム	「なんだかドームみたいなのが見える。」
55	1:39:10																		手作りの橋	「どこへ行くんだろうね。その橋をわたって。」
56	1:41:00																		植物	「すげー、猫じゃらしのでかさが半端じゃない。」
57	1:41:50																		アロエ	「うねりまくってる。アロエだ、」
58	1:42:25															負評価			ドーム	「これかドームって。なんだよー。」
59	1:43:10															検討			ルート	地図を見て検討する
60	1:43:30															選択			ルート	「いかなー、海、あまり良くないの。」
61	1:44:00																		岩場	「こういうのやっぱりかっこいいね。」
62	1:45:10																		山の遠景	「あの辺？行ったのは？」
63	1:48:30																		岩場	「養殖しているのかな？」
64	1:50:00																		漁船	「これで実際に魚を取りに行くんだね。」
65	1:50:40																		海岸の国道	「直線で行ったら早いけど、なかなかかかりますな。」
66	1:51:40																		石碑	「あれなんだろ、石碑。」
67	1:54:40															選択			ルート	「お、面白い。」

図 4-7：被験者 B 散策構成行為整理表

誘われるようにルートを選択する。

海の方角という大きなエリアを目指し、さらに橋を目的に歩行を進めるが、橋の姿が見えた段階でイメージと異なることから取りやめる。

その場から見えるドームを目印として歩行を進め、そのまま沿岸へとたどり着き、起点である潮風王国を目指して戻り始める。

全体的に、どこかの設定した目的に到達することよりも、歩きながらその場の景色を楽しみ、そのたびに、目的が移行している。歩行途中は、手持ち地図はほとんど見ずに、雰囲気によさそうな道をその場で選んで進む傾向があった。

## (2) プラン分析

散策に関連する行為を整理すると、被験者 B の散策は 12 のプランで構成されていることが分かる。(図 4-7) これらのプランについて分析をする。

### ① プラン構成に関して

個別プランによって整理をする。散策開始地点 (1) にて南房千倉大橋へ向かうプラン (Pb-1) を持つ。散策を開始してすぐに、花の小屋を眼にしそちらへと向かう (Pa-2)。さらに進むと案内標識を眼にし、そこで見た高塚山の写真に刺激され (4)、高塚山奥の院へ向かうプランを持つ (Pb-3)。そこで山側の



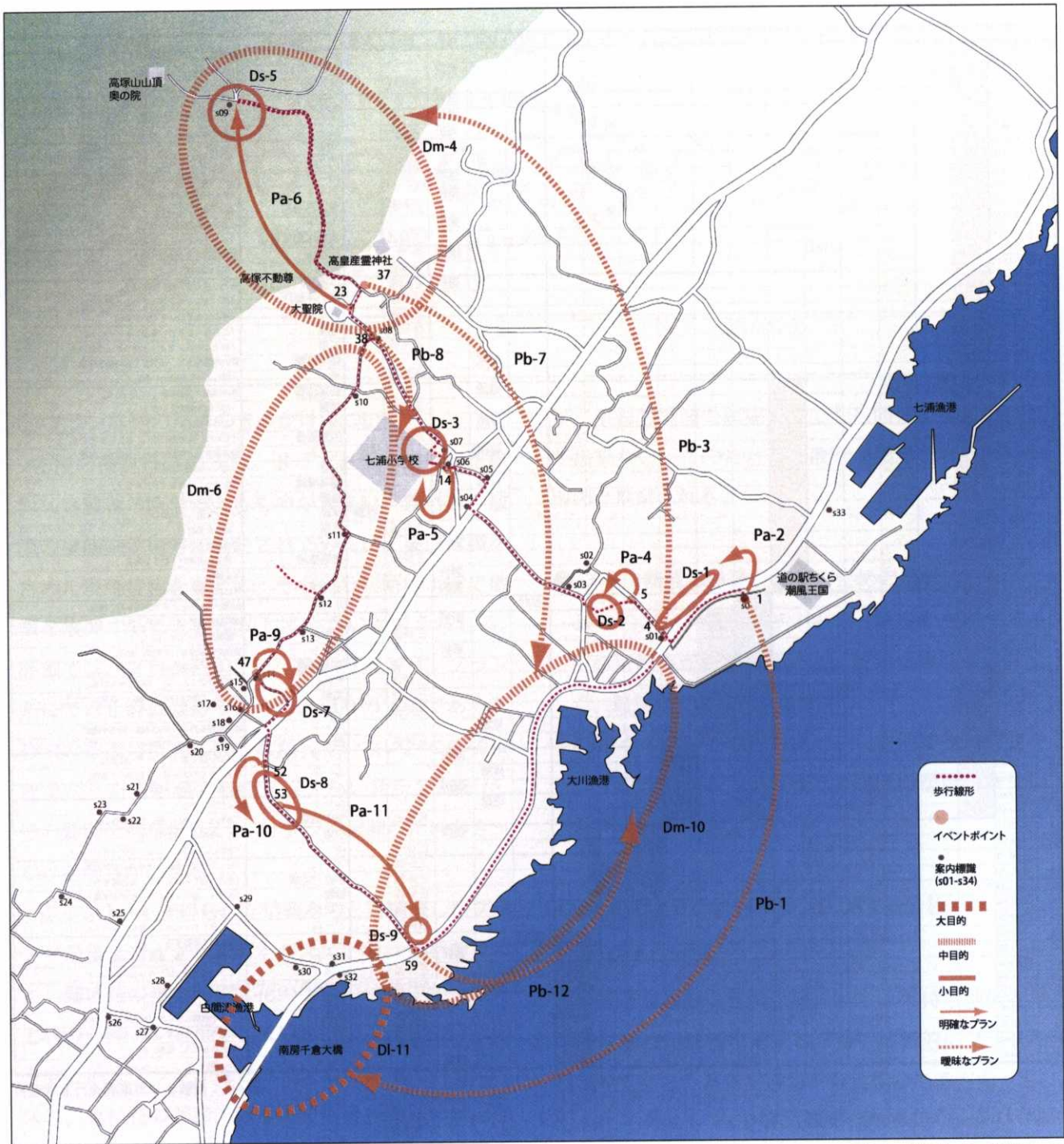


図4-8：被験者 B 散策マップ

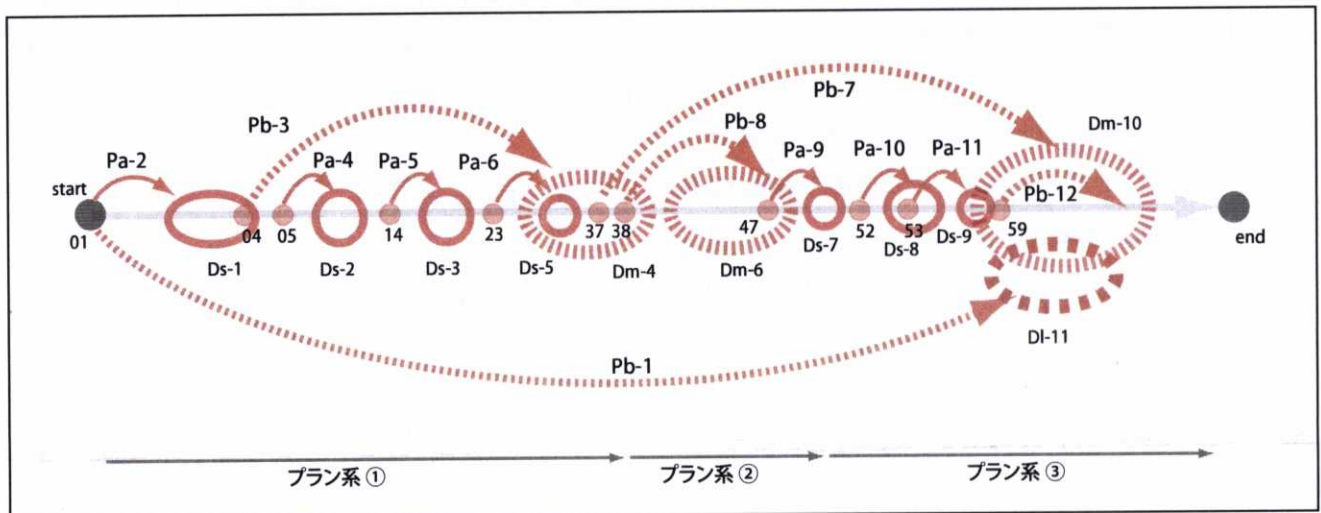


図4-9：被験者 B 散策図式



方面へと進行するが途中で祭りの山車を見るためにルートを選択（Pa-4）したり、七浦小学校を見るためにルートを選択（Pa-5）しながら高塚山を登る。戻ってきた地点で（37）当初想定していた橋がある方面に向かうプランを持つ（Pb-7）。海沿いの道より魅力的と感じたルートを選ぶ。（38）

ルート途中で戻ることを意識し（47）海側へ続くプランを持つ（Pa-9）。この時点で散策開始時に持っていたプラン（Pb-1）も同時に意識している。しかし、南房千倉大橋が遠くから見え（52）想定していたものと違ったためそちらを取りやめ、心地よい小道を歩くプランを持つ（Pa-10）。さらに遠景で見えたドームを目ざし（Pa-11）、海に出たところで（59）海沿いを歩いて戻るプランを持つ。（Pb-12）

## ② プラン系列に関して

個別のプランを図式に整理すると、プランは3つの系で構成されることが分かる。ポイント1からポイント37までの系。ポイント38から46までの系。ポイント47以降の系である。

ポイント1から37の系①では、Pb-1を実行していたが、花小屋をきっかけにPa-2を実行する。そして、近くの案内標識をもとにPb-3を構想し実行する。その過程ではPa-4、Pa-5を実行するが、とくにPb-3に影響はない。Pb-1を実行する過程で、Pa-2が行われたことがきっかけとなり、全く異なるPb-3が行われたことが特徴的である。Pb-3が行われる過程で、aプランであるPa-4、Pa-5が行われているが、Pb-3は影響を受けずそのまま実行されている。

次の系②では、上記のプランが完了する段階の、ポイント38にある案内標識の内容をもとに構想したPb-8の実行が中心となっている。時間の制限を気にするポイント46までこのプランを実行する。

ポイント47以降の系③では、Pb-9の実行である。ポイント52で再度Pb-1を意識するが、改めて海岸方面へ向かうというPb-10のプランを構想し直し、Pb-11を実行している。

## ③ プラン展開のためのきっかけについて

被験者Bの散策は、プラン系①～③に至るまで、広く散策は展開している。プランの検討行為も4度の検討が、全て次のプランの展開につながっていることから、被験者が現場情報をもとに、その場で判断をしてプランを実行していることが分かる。また、会話から判断される被験者の評価も、その場をよく評価することが多いことが分かる。ここでは、このようによりよく散策が展開することになった、きっかけについて考察する。

ポイント1では、総合案内標識から様々な魅力の情報を得て、強い動機ではないプランPb-1を行っている。

ポイント1から歩み始めてすぐ魅力情報を空間情報から得て、Pa-2を実行し、興味の赴くまま歩くと、ポイント04で案内標識による魅力情報を得てPb-3のプランへと発展している。一つのプランが終わりかけたところで、次のプラン構成のための情報が得られたことが、プラン発展において重要な役割を果たしている。他のプランでも同様に、Pb-3が終了する段階のポイント38で、案内標識をもとに次のプランの構想を行ったり、Pb-8が終了しかけたところのポイント47で、魅力的な空間情報をもとに次のプラン構想がされている。

このように、プランの終了近くで、次のプラン構想のための魅力情報が、案内情報や空間情報から得られることが、プランの系列が発展する要因となっていることが分かる。

## ● プラン構成の特徴と展開のための情報

- ・最初のプラン構想ポイントで、様々な魅力情報を得て、どれか一つに固執することなく、曖昧なプランによって歩行を開始することが、散策の発展の可能性を高めている。
- ・明確なプランの実行でも、その散策の目的が小さい対象であると、連続的なプランの発展が可能である。

- ・一つのプラン終了段階で、次のプランのための情報を得ることが、プランの連続的な発展を可能にしている。

## 3.4.3 被験者Cの歩行プランに関する分析

## (1) 散策歩行概要

被験者Cは、総合案内標識と手持ち地図を見比べ、すぐに目的地を千倉大橋に設定し歩き始める。その

LP	Time	Plan1	Plan2	Plan3	Plan4	Plan5	Plan6	Plan7	Plan8	Plan9	Plan10	Plan11	Plan12	検討	確認	選択	評価	休憩	対象	行動内容・発話	
1	00:03:32																			コース	あまり考慮せず、すぐに出発
2	00:01:10														確認					間隔	橋までの距離を確認。
3	00:03:30														確認					現在地	手持ち地図を見ながら進む。
4	00:04:10																正評価			屏風岩	「これが屏風岩？」
5	00:04:40																正評価			海岸の工作物	「あれなんですか？誰ですね。」
6	00:05:10														確認					コース	手持ち地図を見ながら進む
7	00:09:00																正評価			防波堤の壁画	「でもこれは小学生にしたらうまい気がする。」
8	00:09:30																			エリア	「ここ出て良いんですか？」
9	01:05:55															選択				岩場	「ほんとだ。層になってる。」
10	01:13:30																正評価			岩場	「ここ面白いですね。」
11	01:15:17																正評価			岩場	「うわ波がすごい。ここすごい。」
12	01:16:00																正評価			海草	「このブヨブヨはなんて草なんですかね？」
13	01:17:10																正評価			生物	「うーお、貝がいっぱいいる。」
14	01:18:00														確認					時間	「潮風には何時に着けば良いんですか？」
15	01:19:12																正評価			岩場	「これから見る屏風岩も良い」
16	02:00:00														確認					現在時間	「そろそろ橋に行きます。」
17	02:20:10														検討					コース	地図を見て経路の確認。遊歩道へ決定。
18	02:23:20																			コース・ルート	海岸から出て左へ
19	02:24:50														確認					スポット	手持ち地図を確認して公園を発見。
20	02:25:00																正評価			海岸の工作物	「これなんですか？」
21	02:28:00														検討					スポット	灯台があることを知る。
22	02:29:20																負評価			海岸の国道	「トイレに行きたい、。」
23	02:29:50														確認					スポット	案内標識を確認。
24	03:30:30														確認	選択				スポット	トイレのマークを確認。
25	03:50:50														確認					現在地	公園と現在地を確認。
26	03:55:55																	休憩			トイレに行ったり、水分を補給したりした。
27	03:55:55																			スポット	さっきあった人たちの教えてくれた灯台へ行くことにした。
28	03:37:30																正評価			海岸の国道	「おー、なんか飛びましたよ。」
29	03:39:20																負評価			港	「あれ、港なんですかね。」
30	04:42:40																正評価			鳥	「あの鳥なんて言うんですか？」
31	04:43:00																負評価			海岸の国道	「結局出て来なかったら無駄になる。」
32	04:43:25																負評価			海岸の国道	「これ、めっちゃめっちゃ面白い？」
33	04:45:25																			海岸の工作物	少し戻る様にして寄り道をする。
34	04:45:40																正評価			海岸の水たまり	「何に使うんだろう、これ？」
35	04:46:05																正評価			岩	「なんか動物の口っぽくない？」
36	04:48:55																正評価			植物	「なんだろう。へんの。あ、花？」
37	05:15:25														確認					間隔	灯台を確認して、経路変更。
38	05:21:10														検討		選択			エリア・現在時間	手持ち地図を見て山の方へ
39	05:55:15																選択			ルート	山方面へ決定。
40	05:56:55																	休憩			自動販売機でジュースを飲む
41	05:58:35																正評価			店舗	立ち止まって、店の前にある植物について
42	10:03:25														確認					現在地・コース	地図より遊歩道を確認して進む。
43	10:03:45														確認					ルート	案内標識「陸地花の里コース」発見
44	10:05:55																選択			ルート	T字路を右へ
45	10:07:15																負評価			花畑	地図のように花畑がないことに対して不満。
46	10:08:20														確認					コース	案内標識を見つけて近付いていった。
47	10:08:55																負評価			田園風景	「この、稲作しているところが花畑なんですか？」
48	11:05:55																正評価			案内標識	「オーこんな股の仕方してる。」
49	11:11:05														確認					コース	案内標識の森コースへ進む。
50	11:13:25																負評価			田園風景	「開始から1時間ほど経過したので休憩したい。」
51	11:13:55																負評価			田園風景	「ここが全部花になるのだろうか。」
52	11:50:05																選択			ルート	案内標識を発見できず経路選択。
53	11:16:55																正評価			案内標識	「あれって全部案内標識なんですかね。」
54	11:17:10																選択			ルート	案内標識を見落とし、山の見え方に進む。
55	11:17:55																正評価			案内標識	「見逃していた案内標識に気付いた。」
56	11:18:05														確認					エリア	地図の案内標識の森コースを確認し進む。
57	11:19:25																選択			ルート	遊歩道から外れ、そのまま進む。
58	11:19:30																負評価			あぜ道	「休憩するところないかな。」
59	12:00:05																正評価			あぜ道	「こういうところ歩いているよ。」
60	12:01:05																正評価			ソテツ	「うーすごいですね。」
61	12:22:00																負評価			ルート	「行き止まりかも。」
62	12:22:15																負評価			山道	「いつ道を外れたのかも分からない。」
63	12:44:45																選択			ルート	お墓、民家のある左の方へ。
64	12:44:55																選択			ルート	あぜ道を歩いていく。
65	12:52:20																負評価			山道	「迷惑をかけてしまう道かもしれない。」
66	12:57:15																負評価			あぜ道	「できれば遊歩道に戻りたいな。」
67	12:58:05																正評価			花	「この花すごい。」
68	12:58:47																選択			ルート	案内標識に従って進んだ。
69	12:59:55																正評価			植物	「なんだか分からない。」
70	13:01:05																選択			ルート	ほぼ直線のルート選択
71	13:01:53														確認					時間	あ、もうそんな時間なんですか、
72	13:33:05																正評価			ソテツ	「あーソテツの畑？」
73	13:34:05																負評価			案内標識	「上には入れないかな。」
74	13:34:15																負評価			竹垣	「あー、あれ、名物の？」
75	13:35:05																負評価			小学校	「あれ学校じゃないの？」
76	13:39:05																正評価			寺院	「なんかあるよ。なんか家みたいなの。」
77	14:00:05														確認					スポット	寺院に決定。
78	14:20:05																負評価			案内標識	「あれ？なんか目指していたものと違うんだけど。」
79	14:30:05																正評価			洞窟	「おー洞窟があるね。」
80	15:00:05																選択			ルート	案内標識を確認して右折
81	15:50:20																選択			ルート	潮風王国の建物が見え、その方向を選択。
82	15:54:05																正評価			消防ホース	「これなんだろう」
83	15:56:05																正評価			潮風王国	「あー戻って来たー。」

図 4-10：被験者C 散策構成行為整理表



後、歩きながら手持ち地図を見、「森コースもある」ことを発見しているように、歩きながらプランを構想している。

海岸沿いを歩き、海岸に降りられるところを見つけその場の魅力を堪能する。

途中で他の観光客から灯台の情報を聞き、当初の

目的地であった千倉大橋まで行った後に、その延長上にある灯台を目指す。しかし、非常に離れているため、結果的に、予定時間内にいけそうもないと判断し、山側へと向かうことに決定する。ここで、手持ち地図を見ながら「適当に山側に向かいます。」と発言しているように、詳しい検討をせずに山側に向

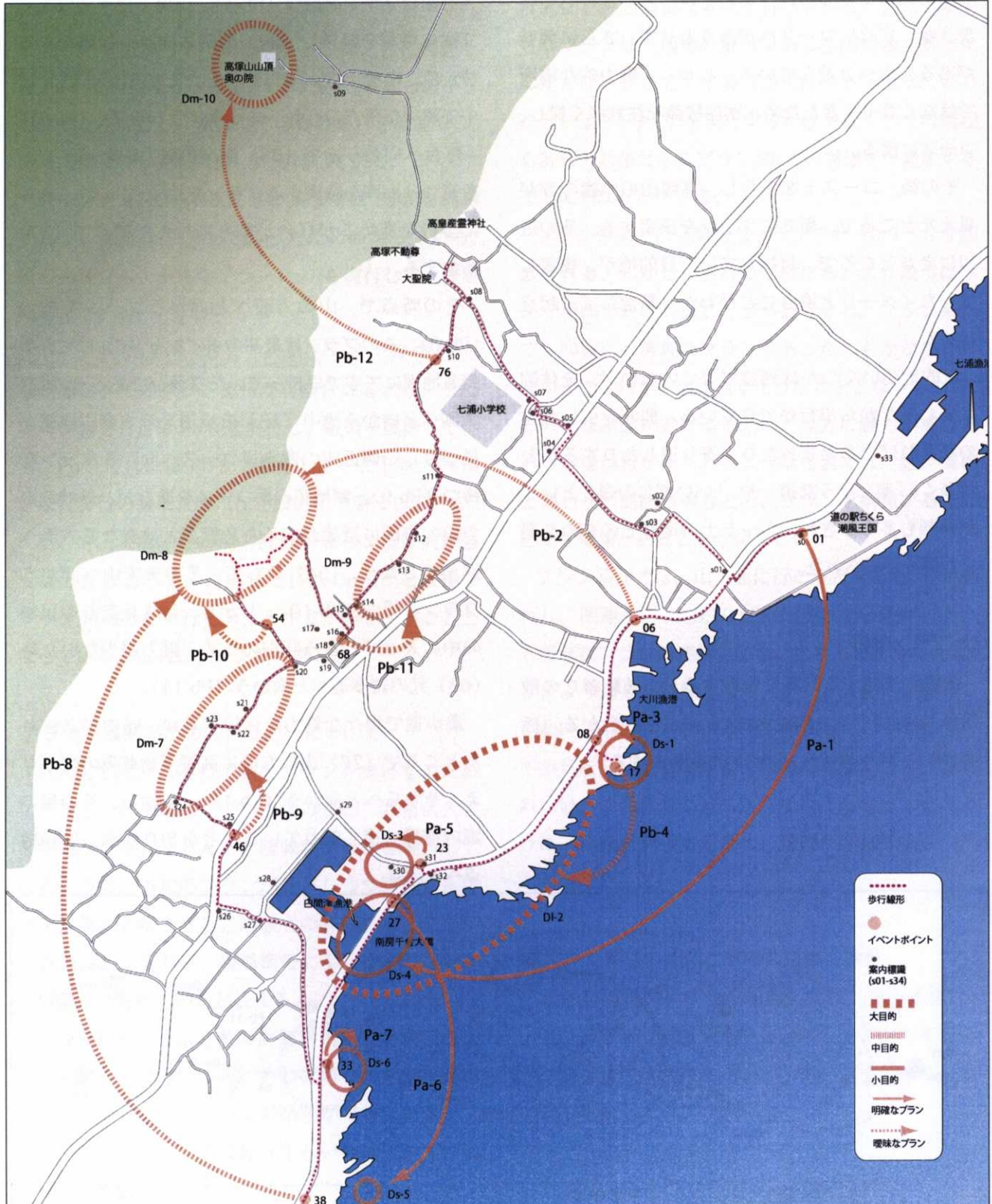


図 4-11：被験者 C 散策マップ



かうことを決定し、歩行を進めてから手持ち地図を見ることによって、遊歩道の位置を確認している。

山の方向に行きたいという意向に対し、遊歩道の名称が「照葉樹の森コース」である事を手持ち地図で確認し、コースをたどるように進行をする。

しかし、コースをたどることにこだわりは無く、次第に興味がある方向へ進み、コースから外れてしまうが、すぐにコースへ戻ろうとせず、さらに興味がある方向へと進んでいる。しかし、魅力的な場所ではなくなってきたため、案内標識を注意深く探し、コースに戻る。

その後、コース上を歩行し、高塚山の中腹の寺が見えたところで、新たにプランを決定する。その近辺にきたところで、目指していた目的地が、想定していたイメージと違うことがわかり断念して、起点へ戻る。

目的地のいくつかは到達できていないが、全体的に楽しみながら歩行ができています。興味を引いたものがあれば立ちどまったり、寄り道したりすることが多く、「楽しそうな道」や、「いい感じの道」といった発話も多くなされ、ルート上の環境そのものを楽しむ傾向が見られた。

## (2) プラン分析

散策に関連する行為を整理すると、被験者Cの散策は12のプランで構成されていることが分かる。(図4-10) これらのプランについて分析をする。

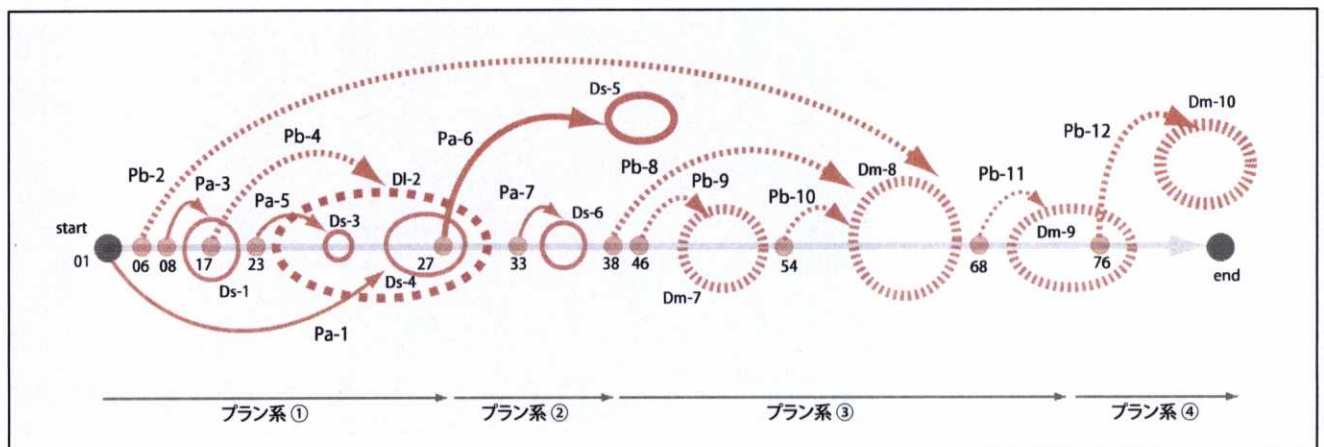
### ① プラン構成に関して

個別のプランは次のように整理される。歩行開始地点(1)では、手持ち地図と総合案内標識で目的を南房千倉大橋とする。(Pa-1) 南房千倉大橋へ向かう途中に魅力的な海岸を見つけ(8) 海岸に降りて散策する。(Pa-3) さらに、遊歩道とされている海岸コースを進むプランを持つ(Pb-4)。南房千倉大橋の近くで案内標識を発見し(23) 公園に向かい休憩をする(Pa-5)。南房千倉大橋に到着したところで(27) 道中で聞いた南方の灯台へ向かうプランを持つ(Pa-6)。

灯台へ向かう途中(33) 海岸の魅力的なポイントを見つけ海岸を散策するプランを持つ(Pa-7)。さらに歩行を進めるが灯台が彼方に見えた時点で(37) 断念する。

その時点で、山の方面へと向かうプランを持つ(Pb-8)。このプランは最初のポイント(6)にて、手持ち地図にてすでに持っていたプランである。(Pb-2) 山側へと向かう途中(46) 遊歩道を示す案内標識を見つけ、山側近辺の遊歩道コースへ向かうプランを持つ(Pb-9)。露地花の里コースを進むが、分岐地点で山の方面に意識があるため標識とは異なる方面へ進んでしまう。(54) そして、そのまま山へ向かうプランを持つ(Pb-10)。しかし、行き止まりや民家の中に入ってしまう状況のため、魅力が少ないため(68) 元の遊歩道へと向かう(Pb-11)。

遊歩道で様々な魅力を体験するが、魅力がとぎれたところで(76) 山の方面に高塚不動尊奥の院が見え、そちらへと向かう(Pb-12)。しかし、その麓の案内標識で遠く離れていることを知り断念。開始地点へと戻る。





## ② プラン系列に関して

目的に対する強いこだわりはなく、Pb-5 と Pb-12 の2つのプランが断念されている。その他は、多くのプランが実現されており、図式のように4つの系に整理される。ポイント1から27までのプランの系、27から38までの系、38から76までの系、76以降の系である。

ポイント1から27までの系①では、当初構想したPa-1を実行する過程で、Pa-3やPa-5などの小さなプランを実行し、次第にその場の楽しさを理解し、Pa-1を含むPb-4を構想し、実行している。

ポイント27から38までの系②ではPa-6を構想するが、無理なプランであったため断念している。その過程でも、小さなプランPa-7を実行して過程を楽しんでいる。

ポイント38から76までの系③では、37でPb-8を構想し、そのプラン実行が可能になるよう、その場の情報をもとにPb-9を実行し、散策を展開している。Pb-9ではほぼPb-8で想定していた状況が実現され、実行の後に、Pb-10を構想して実行している。

そして、次第にその場の評価が負となる傾向が強くなったところで、目にした目的Dm-10を目指すプランPb-12を実行しようとするが断念することとなっている。これがプラン系④である。

## ③ プラン展開のためのきっかけについて

系列①では、当初の明確なプランを実行するために、小さいが明確なプランを積み重ね、次第に大きな明確なプランを含んだ、曖昧なプランを実行しているように、当初のプランが変容しつつ発展する様子を見ることができる。被験者の評価もほとんどが正評価になっており、現場情報による好ましい散策の展開がなされていると云える。

一方、系列③では、負の評価が出始めたらプランが変更されているように、いわば場当たりの曖昧なプランを構想し、プランの系列ができていく。プラン系①のように、散策は好ましい発展をしているとは言い難い。

ここでは、一人の被験者においてもプラン展開の相違があることから、展開のためのきっかけについて考察をする。

最初に構想した南房千倉大橋に向かうプランPa-1は強いものであったが、そこまでのルート上で小さなPa-3やPa-5プランが実行できたことが、プラン展開において重要な意味を持っている。これらの小さなプランは、現場の魅力である空間情報をもとに即座にプランを立てて実行が可能であったが、このことにより、Pa-1を実行するだけでなく、その過程も散策の対象となるプランPb-4の構想を可能にすることにつながっている。

プラン系②では、無理なプランであったPb-5が断念される。しかし、実行していたら、より散策はうまく展開できていたことが予想できる。プラン系④でも同様に、無理なプランであったにもかかわらず途中まで実行し、引き返すようなこととなっている。このような事態を避けるために、遠方に魅力が感じられる現場情報が見られるような位置では、魅力情報とあわせ、間隔情報などの、プランを構想する際に必要な情報があることが望ましい。

プラン系③では、山方面に行こうとするPb-8を実行し、関連してPb-9,10が実行されているが、どれも曖昧なプランの連続であり、とりあえず歩行をし、さまようような状態となり、プランは特に発展していない。照葉樹の森コースという既定のコースに沿って歩行をしているはずが、興味の対象に引きつけられ、いつの間にかコースからずれてしまっているように、歩行を進行するための情報が希薄であったことが要因である。

## ● プラン構成の特徴と展開のための情報

- ・ 目的意識が強いプランであっても、実行過程で、そのプランに関係する小さなプランを実行することで、当初の目的だけではないプランが幅広く展開される。

- 魅力ある遠景は散策の目的対象となりやすいが、プラン構想に必要な情報、特に間隔情報がないまま実行をすると、実現されないプランが構想される可能性がある。
- 魅力的な現場情報が多くある場合、小さなプランを実行することで、正確な空間情報の把握ができなくなり、次のプランが正確に行えなくなる。正しい空間情報の把握が可能となる情報が提示される必要がある。

もなく、即座に照葉樹の森コースを選択。

ある程度進行したところで、高塚不動尊の建物を山中に見て、存在を認識する。

その後、照葉樹の森コースを進むにつれ、山道となるが、高塚不動尊奥の院の話を実験者から聞き、興味を持ち、結果として山道を登る。最終的にはその入り口の鳥居のところまで到達する。その場で多くの時間を過ごしたため、その場の案内標識をもとに、同じ道に戻ることにする。

下りでは、周囲の景色を見ながら、ゆとりを持って下る。

周囲を見るゆとりから、逆に、一部の案内標識を見落とし、戻るためのルート選択を誤る。実験者の案内を得て、ルートを修正し、起点へと到着する。

### 3.4.4 被験者Dの歩行プランに関する分析

#### (1) 散策歩行概要

被験者Dは、総合案内標識にて、ほぼ検討するま

LP	Time	Plan1	Plan2	検討	確認	選択	評価	休憩	対象	行動内容・発話
1	00:00			検討					ルート	照葉樹の森コースに行くことに決定
2	00:20						負評価		案内標識	「もうちょっと大きい方がいいわね。」
3	00:23				確認				案内標識	サインを正面から見ると、矢印が見えないため、どっちへいっていいかわからない。
4	00:45				確認				案内標識	案内をすぐ見つけ左折
5	00:06						負評価		案内標識	「なんか、よそ様のうちではないのかな？」
6	00:06				確認				案内標識	家の壁についたサインを見て確認をした後に、サインがもっと大きい方がいいと指摘
7	00:50						正評価		断層	「断層岩っていうのがあったわね。」
8	00:59				確認				案内標識	遠い位置から、サインを発見、違和感を感じる。
9	01:15				確認				案内標識	案内標識を通り過ぎてから降り方を確認。
10	01:35						負評価		案内標識	「国道なの？メインにはしてはなんか、...」
11	01:45				確認				案内標識	案内標識確認に従って左折
12	01:30				確認				案内標識	小学校を見て、さっき見た看板と結びつけている
13	01:40				確認				案内標識	案内標識確認に従って右折
14	01:20					選択			案内標識	特に迷わず左折
15	01:30						負評価		案内標識	「上りになってきましたね。」
16	01:30						正評価		案内標識	「黒アゲハ？」
17	01:35						負評価		案内標識	「夜はちょっと歩けそうもないわね。」
18	01:40				確認				案内標識	「これは料理神社の高家神社の神様の方角とは違う？」
19	01:40				確認				案内標識	遠くに見えた寺院の屋根で名称を確認
20	01:50						負評価		案内標識	「狭いわね、ここ。のどかっていえるのどかだけだ。」
21	01:15				確認				案内標識	案内標識の見方を確認。
22	01:30				確認				案内標識	「え？この中を通るの？一瞬あれ？この中を通るのかしらと思っちゃった。」
23	01:00						正評価		案内標識	田園風景を見渡した後、案内標識があるが確認せず山へ向かう。
24	01:20						負評価		案内標識	「途中で蛇がでたりしないでしょう？」
25	01:30				確認				案内標識	「この方角ちょっと行けないんじゃない？」
26	01:30						負評価		案内標識	「なんかコースによっては云々って書いてあったから、歩きやすい靴で来たけど。」
27	02:15				確認				案内標識	「この上は何があるんですか？」
28	02:15							休憩	案内標識	長い階段の途中で立ち止まり、休憩。
29	02:30						負評価		案内標識	「まだあるの？ちょっときついわね。うそへ。相当傾斜がきついわね。」
30	02:30						負評価		案内標識	「もうちょっとがんばってみようかな？」
31	02:40							休憩	案内標識	立ったまま休憩。
32	02:40				確認				案内標識	「ここで1/3ぐらい？」
33	03:30						負評価		案内標識	「スロープ的になっている方がまだ楽かもしれない。」
34	03:30						負評価		案内標識	「具体的にこういうものがあるみたいですけど案内表示はないんですか？見直しました、方向ばかりに目がいつちゃって。」
35	03:30				確認				案内標識	到着前標識で降り道を検討
36	03:40						負評価		案内標識	「照葉樹の森登山道コースって言った方がいいかもね。」
37	04:10								案内標識	手持ち地図を見ながら降りを検討する。
38	04:10				確認				案内標識	「時間今何時ですか？」
39	05:40				確認				案内標識	「時間今何時ですか？」
40	05:30			検討					案内標識	戻りも同じルートに決定。
41	05:30						正評価		案内標識	「ゆとりが出るとうね、載せたりもできるんだけど、上りはとてもじゃないけど。」
42	1:08						正評価		案内標識	「やっと視界が開けてきた！ああ、きれい！でも結構こうやって来るっていいわね、きれいね。」
43	1:11				確認				案内標識	まっすぐ行こうとして、細い道に入らないといけないことに気づく
44	1:13				確認				案内標識	離れたところから小学校について話す
45	1:16				確認				案内標識	迷ったが、案内標識を発見し、それを手がかりに思い出して右折。
46	1:17				確認				案内標識	遠くに見える国道を確認し確認。
47	1:18				確認				案内標識	「え？本当？違う道？」
48	1:18				確認				案内標識	「そういえばそうね、こんな道通らなかったわね。表示をちゃんと見てないと、...」
49	1:19				確認				案内標識	七瀬小学校の看板のイメージはあるが、逆の方向に進む。
50	1:20				確認				案内標識	「方角は大丈夫？こっちであって？」
51	1:21				確認				案内標識	立ち止まって手持ち地図にて確認を始める。
52	1:26				確認				案内標識	間違えた箇所へ戻る
53	1:28				確認				案内標識	間違えた箇所で案内標識をよく見る。
54	1:30				確認				案内標識	標識を確認して国道を渡る
55	1:34				確認				案内標識	民家の壁の表示をすぐに見つけて評価
56	1:38				確認				案内標識	案内標識を確認し、内容を再度見る。

図 4-13：被験者D 散策構成行為整理表



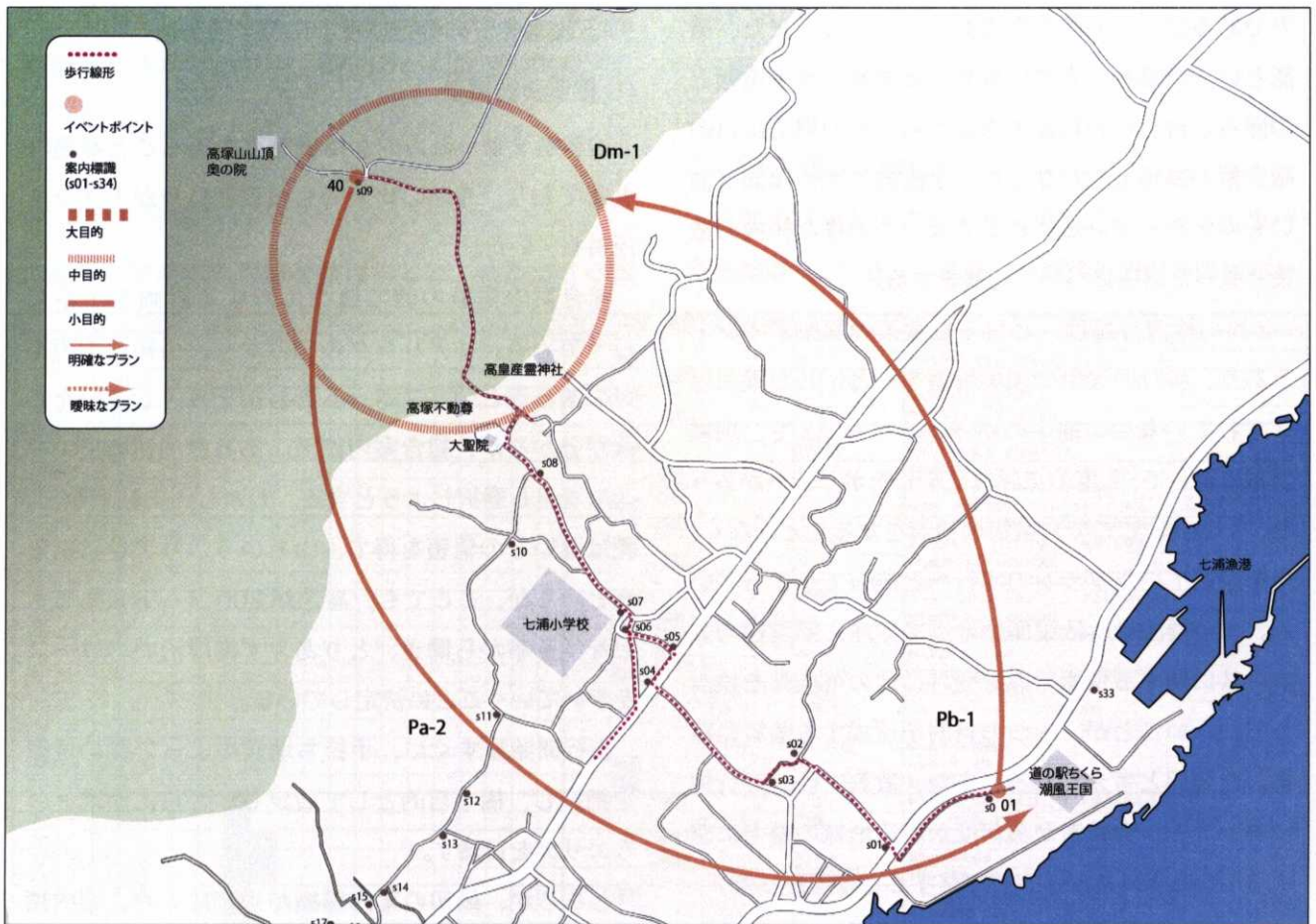


図 4-14：被験者 D 散策マップ

## (2) プラン分析

散策に関連する行為を整理すると、被験者 D の散策は 2 つのプランで構成されていることが分かる。(図 4-13) これらのプランについて分析をする。

### ① プラン構成に関して

歩行開始地点 (1) で即座に照葉樹の森コースを行くというプラン (Pa-1) を構想し、高塚山に登り終わった後 (40) は、開始地点へと戻るプラン (Pa-2) を構想し実行している。

散策におけるプランの構成は非常にシンプルで、

実質一つのプラン Pa-1 を実行したのみである。歩行の途中では小さいプランすら構想せず、最初の構想を実行するのみである。

つまり、プランは、系を構成するまでの発展を見せていない。

### ② プラン展開のためのきっかけについて

散策の展開は特に見られず、散策構成行為整理表を見ても、他の被験者と比較して、負評価と確認の行為が多い。評価は被験者の発話から分析をしたも

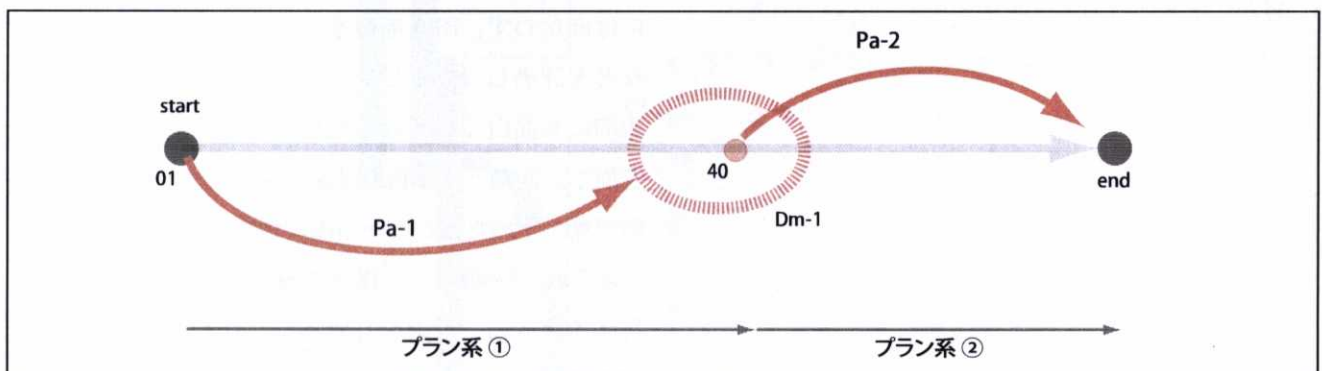


図 4-15：被験者 D 散策図式

のであるが、負の傾向性は高いと云える。また、確認という行為も、すでに得ている情報と現場情報との照らし合わせの行為であるから、その場では目的確定型の経路選択がなされ、全般的にその傾向は高いものとなっている。ここでは、この様な傾向の散策となった要因について考察をする。

2回の検討行為は、どちらも散策の開始ポイントであり、歩行の途中で現場情報をもとにした検討はなされていない。途中のポイント7や23で、現場情報に対して、2度の正評価を示したポイントがあった。しかし、ここでも散策の検討をすることはなく、当初決めていたプランの実行へと戻ってしまっている。この要因は、散策開始地点で即座に照葉樹の森コースに関する情報のみを受け、他の可能性を検討していないことが、一つの目的を達成する散策に終始した要因と考えられる。また、散策プラン実行中においても、実験者から何度か周辺地域の魅力に関する情報を受けたが、実行に移すことはなかった。

一方で、当初のプランを達成した後に、戻り方向の歩行を進めているポイント42では、現場情報に注意を向け歩行をした結果、迷ってしまう。このことから、すでに目的が達成された後の魅力的な空間情報は散策を展開する要因となる可能性がある。

散策開始地点で構想したプランの強さとともに、そのルート上で受けた情報が体験を伴う情報にならなかったことが、散策プランの系が発展せず、一つの目的のみに終始してしまった要因だと考えられる。

#### ● プラン構成の特徴と展開のための情報

- ・ 散策開始地点で、地域の魅力に関してイメージを豊かに伝えられるような情報提供が必要である。
- ・ プラン実行中のルート上では、周辺地域に存在する魅力を体感できるような伝え方が必要である。

### 3.4.5 被験者Eの歩行プランに関する分析

#### (1) 散策歩行概要

被験者Eは、魅力的な風景写真を撮ることを趣味としており、今回の実験でも被験者自身がカメラを所持していた。

総合案内標識の前で散策に関する計画を丁寧に行っている。ヒアリングの内容から、当初は山の裾野にある寺というスポットを目指そうとしていたことが分かるが、総合案内標識にある露地花の里コースに着目し選択しようとする。しかし、実験者から、花はないとの情報を得て、山というエリアを目指そうとするが、ここでも、高さが200メートルあることを実験者から聞き、とりあえず海岸沿いのコースを歩いていくことに決定している。

歩行開始後すぐに、手持ち地図によって橋の位置を把握し、橋を目的として設定し、さらに漁港というエリアを目指す。

ところが、最初の案内標識が視野に入り、案内標識が示すこれまで向かってきた方向とは関係のない方向へ歩行を進める。歩きながら手持ち地図にて高塚不動尊というスポットに決定する。その後、山の上にある高塚不動尊奥院は高いので、中腹の本殿に変更。さらに、山が高いので、本殿に行くことも中止。その場所で5分程度滞在した後に戻る。

手持ち地図と実験者にルートを確認し、ルートを選択する。

田園地帯を歩き、とぎれたところで、ルートの検討を行う。ここでは案内標識と手持ち地図を元に、実験者から公園もあるという情報を聞き、港のある方面へと向かうことに決定する。しかし、すぐに港には向かわず、田園地帯を少し進む。古い作りの町などを評価しつつもピンク色の小屋などが見え、景観的にも面白くなった所から、本格的に海岸の方面へと向かう。手持ち地図で確認しながら進行し、船が見え始めたところから海岸の方へとおりる。

限られた時間内で、様々な魅力的な風景の撮影が行えるように、計画をして歩行は行われている。当初の計画の通りに歩行をしようとしたわけではない



が、結果として、様々な魅力的なシーンで、多くの撮影を行うことができ、満足のいく散策が実現されていた。

策は18のプランで構成されていることが分かる。(図4-16)これらのプランについて分析をする。

### ① プラン構成に関して

## (2) プラン分析

個別のプランは次のように構成されている。歩行

散策に関連する行為を整理すると、被験者 E の散

開始地点（１）では、高塚山の裾野近辺の寺院に向か

LP	Time	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	p9	p10	p11	p12	p13	p14	p15	p16	p17	p18	検討	確認	選択	評価	休憩	対象	行動内容・発話
1	0:00:00																								プラン	一旦花畑コースへ向かうとするが、海に沿って歩く事に決定。
2	0:01:20																				確認				ルート	手持ち地図にある道と現場の照合をしようとしている
3	0:01:30																					選択			スポット	手持ち地図を確認し、進路に興味を持つ
4	0:02:11																					確認			ルート	駐車場の出入り口を確認する
5	0:2:15																					選択			ルート	駐車場の中を歩く事に決定する
6	0:04:20																				確認				スポット	漁港の位置と現在地からの距離を実験者に確認。
7	0:04:50																				確認				現在地	手持ち地図を見る。案内標識を見る。
8	0:05:00																				選択				コース	案内標識を見る。第1コースへの立ち寄り決定
9	0:05:50																				選択				ルート	手持ち地図を折り畳んで持ち、見ながら進む
10	0:06:30																				確認				ルート	実験者、手持ち地図よりまっすぐ進むことにする。
11	0:07:00																					選択			スポット	手持ち地図を見て、高塚不動尊の本願を目指す事に決定。
12	0:08:00																				確認				ルート	案内標識をみて、行き方を確認し、あたりを見直す。
13	0:11:00																				選択				ルート	案内標識に気づかず即座に選択
14	0:11:30																						負評価		青トタン小屋	「あの青いトタンの色、風景を壊すよね。」
15	0:13:00																				確認				現在地	バス通りに近付いてきたところで、手持ち地図を開く。
16	0:13:30																				選択				ルート	案内標識を見直し、即座に選択
17	0:14:30																				選択				ルート	道を横断し、案内標識を見直す。実験者の問いかけで気づく
18	0:15:40																				選択				ルート	案内標識に従って右折
19	0:16:10																				確認				スポット	分岐を自然に曲がって遠くに見える寺の屋根を見つけ質問
20	0:16:40																					正評価			落花生	畑を見ていろいろと会話を楽しむ。
21	0:17:40																					正評価			小学校	「あれこれ何？へー。これは驚いたね。」
22	0:19:10																					正評価			ゴーヤ	「これ料理に使うのいいしけど、葉っぱがきれいだよ。」
23	0:20:00																					正評価			横の垣根	横の垣根の写真撮影
24	0:23:00																				確認				スポット	大聖院を見て確認
25	0:23:30																				確認				スポット	案内標識をもとに検討する
26	0:24:30																				選択				スポット	手持ち地図と現場の案内図により、中腹の本殿を目標地に。
27	0:25:30																					正評価			洞窟	「おお、穴が通ってある。」
28	0:25:40																				選択				ルート	「ちょっと登ってみようか」
29	0:27:00																				選択				ルート	風景の写真を撮る
30	0:27:30																					正評価			田園風景	見晴らす写真を撮る
31	0:30:00																				確認				ルート	小さな分岐で山の方角を確認
32	0:31:00																					正評価			シュロ	シュロを写真に撮る。
33	0:33:00																				確認				時間	振り返ってあたりを見渡し時間を確認
34	0:35:00																					正評価			蛇	「蛇？ちっちゃい蛇。」
35	0:36:10																				選択				スポット	これ、でも中に入っていくのは大変だね。この辺で打ち止めしよう。
36	0:37:20																					負評価			階段	「階段は全部コンクリートなの？」
37	0:38:00																				選択				エリア	じゃあそろそろおりようか。
38	0:39:30																				確認				方向	森を出たところで方向確認
39	0:41:00																				確認	選択			ルート	実験者に案内標識の存在を確認しつつ、手持ち地図を頼りに右手へ曲がる。
40	0:42:00																					正評価			田園風景	田園の眺めに写真を撮る
41	0:43:30																					正評価			野焼き	畑の野焼きを見
42	0:45:00																					正評価			山肌	分岐地点であたりを見渡し、山に見えた岩筋を質問。
43	0:48:00																							休憩		あぜ道に腰を挂景山の方を見て休憩 4分間>
44	0:52:30																					正評価			田園の用水路	「トンネルみたい。」
45	0:54:00																				検討	確認			コース・時間	手持ち地図を指差しながら時間の確認。
46	0:55:00																					正評価			竹棚	畑の中にある竹で出来た棚。竹囲いとは別のものを見て気にする。
47	0:56:00																					正評価			カボチャ	「カボチャだね。これは大きくなりすぎている。」
48	0:56:10																					正評価			オクラ	「おくらだね。これは。大きくなり過ぎている。」
49	0:57:00																				選択				ルート	案内標識に従って右折
50	0:59:00																					正評価			野菜	「これなんだっけ？花？」
51	1:01:00																					正評価			竹囲い	案内標識をききながら竹囲いを探す
52	1:01:40																					正評価			農家	竹囲いの説明案内標識を見、地元のお婆さんに説明などを受ける。
53	1:05:00																					正評価			畑	「これ春は花が咲いているの？」
54	1:05:10																				検討				エリア・ルート	手持ち地図と、案内標識を見比べて検討する。
55	1:08:00																					正評価			畑	「食とかはない？」
56	1:08:50																					正評価			畑	写真を撮る
57	1:09:50																					正評価			イチジク	「この木なんだか分かる？」
58	1:11:00																					正評価			庭の海草	海草を干している人に声をかけ、使い方などを聞く。
59	1:12:00																					正評価			民家	「この辺は昔の雰囲気が残ってるね。」
60	1:12:20																					負評価			案内標識	案内標識を見るが内容を確認せず。
61	1:13:00																					正評価			瓦屋根	「ああ、あれは昔ながらの屋根瓦だねいいね」
62	1:14:00																				選択				ルート	案内標識があるが着目せず、あたりを見直す
63	1:14:30																					正評価			民家	近くのソテツの生えた民家を見て写真
64	1:16:00																				選択				ルート	「こっちはお寺？」
65	1:16:50																				確認				スポット・方向	国道に出て橋を探す
66	1:18:30																					負評価			トタン小屋	「ピンク色の花の小屋を見て評価」
67	1:19:00																					正評価			田園風景	畑の写真
68	1:21:00																					正評価			田園風景	畑の写真
69	1:22:50																				選択				エリア・ルート	国道を横切ってさらに海岸へ
70	1:24:00																				確認				イチジク	「イチジクの甘い匂いがするね。わかる？」
71	1:24:30																				選択				エリア	手持ち地図を確認。
72	1:25:40																					負評価			分岐	案内標識を見直す
73	1:26:00																					正評価			花小屋	「小屋がちょっとね。」
74	1:26:30																				選択				スポット	船が見えていたで自然と港の方へ進む。
75	1:30:30																					正評価			公園	「公園を探し、駐車場入り口付近の記念案内を見てはいる。」
76	1:31:00																				選択				岩場	「岩場を目にして、気に入って橋を越え撮影」
77	1:32:00																				選択				ルート	公園から岩場に降りる
78	1:37:00																				選択				ルート	道路の向こう側に渡る
79	1:39:30																					正評価			海の風景	「へー撮れるかどうか分からないけど、いっぱい」
80	1:41:30																					正評価			海の風景	カメラ操作のため案内標識に気づかない
81	1:45:10																				確認				ルート	海岸におりようとするがよく分からない
82	1:46:50																				選択				ルート	岩場に降りて、岩場の上を港風王園に向かうとした。
83	1:49:00																					正評価			岩場	「何とも言えない、面白いな。」
84	1:54:30																				選択				ルート	出口を見つめるとのルートに戻る
85	1:55:00																				選択				ルート	岩場から国道に戻る
86	1:57:00																					負評価			防波堤	「こういうのはどうかと思うよね。」

圖 4-16：被驗者 E 散策構成行為整理表



うというプラン（Pb-1）を持ったが、海沿いへ向かうというプラン（Pb-2）に決定し歩行を開始する。少し歩いた後に（6）、海の方面でもより近くの大川漁港へ向かうというプラン（Pb-3）へと変更して歩行をすすめる。すぐに、案内標識を眼にし（8）、その標識から山側へと続く道へ入るプラン（Pa-4）へと変更する。さらにこの小道を歩き始めてすぐに（11）、高塚不動尊へ向かうプラン（Pb-5）に発展する。このプランは明確なプランのようであったが、近く

まで到達した後にあきらめており、曖昧なプランであったと言える。

そして、高塚山から引き返した分岐（39）で、田園地帯を見、さらに畑で煙を目にし、その煙の撮影をしようとするプラン（Pa-9）を進める。すぐにこの目的は達成できるが、歩行を進めると、このコースを気に入りそのまま歩みを進めている（40）。この段階で特に発言はなされていないが、この段階でこのコースを進むというプラン（Pb-9）が得られて

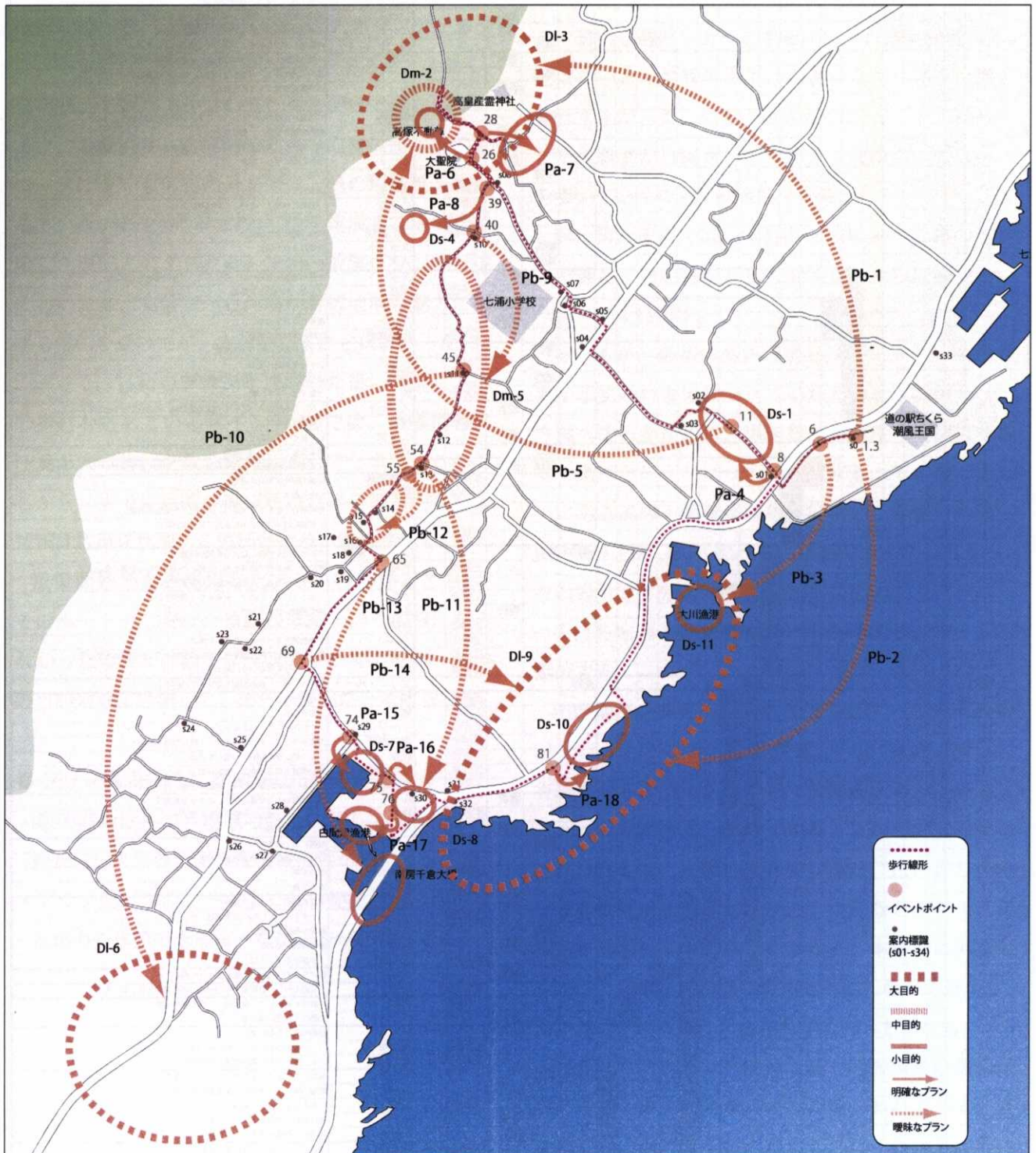


図4-17：被験者 E 散策マップ



いると思われる。さらに進んだところで(45)、白間津方面までいけないかとプラン(Pb-10)を立てる。このプランはそもそも非常に離れており、ほぼその方向へ向かう程度となる。案内標識が見えたことをきっかけに(54)具体的に南房千倉大橋公園のあたりへ向かうプラン(Pb-11)を持つ。しかし、このプランも即座に実行するわけではなく、そのままコースを延長して歩行を進み、コースの負の評価が始めたところで(69)、海岸沿いへ向かおうというプラン(Pb-13)へと変更する。

このプランも明確な動機があるものではないため、漁港で眼にした漁船に興味をわき(74)漁船を見るというプランへと変更している(Pa-15)このプランは即座に実行し、そのまま隣接する南房千倉大橋公園へと向かい、散策開始地点で構想したプラン(Pb-2)を実現している。そこからさらに岩場(76)へ降りるプラン(Pa-17)を実行し、これも必然的に歩行開始時点(1)や、途中(69)で構想した海沿いを体験するというプラン(Pb-2)(Pb-11)を実現している。

## ② プラン系列に関して

プラン構成を整理すると、大きく3つの系列で構成されている事が分かる。ポイント1から39までのプランの系列と、ポイント39から55までのプランの系列、そしてポイント55以降の系列である。

ポイント1から39までの系①では、当初Pb-1を実行しようとしていたが、Pb-2も意識の中にあった。

またPb-3というプランの可能性もあったが、ポイント10にて案内標識を目にすることで、Pa-4が構想され、さらにこのプランを実行する中でPb-5が構想され、結果的に当初構想していたPb-2が部分的ではあるが実現されている。

ポイント39から55までの系②では、ポイント40で目にした畑の中の煙をきっかけにPa-7を実行するが、その要素を含むコース自体を気に入りPb-9を実行している。ここは当初全くプランを持っていなかったが、明確なプランPa-7をきっかけとして散策を広げることができている。

ポイント55以降の系③では、この段階ではまだPb-9の延長上にあるが、歩行する過程で負の評価が多くなり始めたことをきっかけに、Pb-13を構想する。さらに、Pb-14を構想するが、実は当初構想したPb-2とどちらも重なるプランとなっている。どちらのプランも、さらに、Pa-15とPa-17をきっかけとして実現され、当初構想したプランが最後に実現することが可能になっている。

どの系列においても、曖昧なプランと明確なプランが重なり、目的も大から小までが包含するように構成され、プランの展開の様子を見ることができる。

## ③ プラン展開のためのきっかけについて

それぞれのプランでは、目的に対するこだわりは強くないが、最初に構想した海沿いのコースを最終的に体験していることから、結果的にプランPb-2以

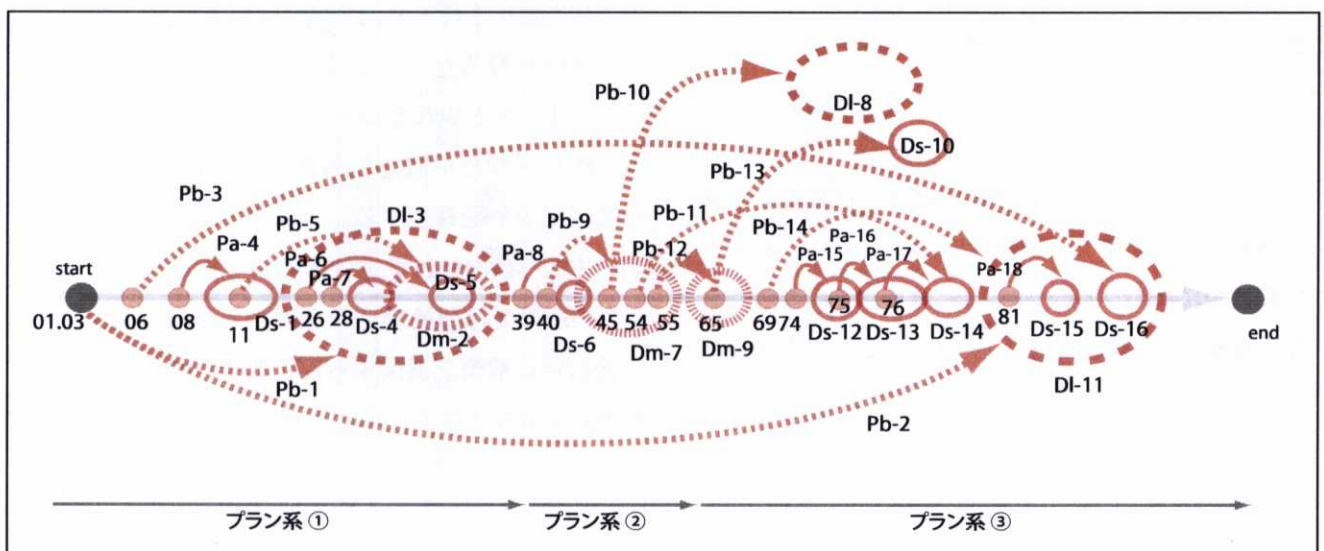


図4-18：被験者E散策図式

外はほぼ実現でき、全体的によく散策が展開されている。この様にプラン系がうまく展開し、散策が拡大した要因について考察をする。

系①では、ポイント1で様々な現地の魅力情報を案内標識より入手し、とりあえず設定した目的に向かって歩行を進めていたが、ポイント8で、次の案内標識を発見し、より近くに具体的な魅力のポイントがあるという情報を得ることによって、そのスポットに向かうことが出来た。そのスポットを体験し、現場の空間情報から魅力を感じ取ることによって、さらにプランを拡大し、山へ向かうというプランPb-5を持つことに至っている。このプランが目指す目的地はポイント1で検討したプランPb-1とも重なるエリアであり、現場の空間情報によって、当初の構想したイメージがより具体化を帯びていくことで、プランが発展することが容易になされていると考えられる。

系②では、ポイント40で目にし、魅力を感じ取った空間情報をきっかけに、歩行を進めることによって、いっそう現場の魅力情報を得ることができている。魅力と感じた空間情報に対して、即座に行動をとった後に、その後のプランを構想することによって、プランが発展していると考えられる。

系③では、沿岸を歩こうとするプランPb-14を実行しようとしているが、ルート上で漁港を目にし、魅力情報を得てそのままPa-15を実行している。一つの魅力が次の魅力へとつながっていったため、必然的にスムーズなプランの展開ができている。この際、橋に向かおうとしたプランは実際は行われていない。橋は、Pb-13とはいったん逆の方向に向かう必要があるため、スムーズな展開とならない要素があるからだと考えられる。このことから、魅力的な要素が、次のプランの実行に対し、矛盾することなく連続していることが、プランの展開の重要な要素となっていると考えられる。

#### ● プラン構成の特徴と展開のための情報

- ・曖昧なプランによってなされとりあえずの歩行は、次のプランの展開のきっかけを得るための基盤となる。
- ・手近に具体化できる魅力情報を得ると、現在進行しているプランに対して優先的に構想される。
- ・曖昧なプランの歩行を実行している時、現場から空間情報が得られると、次第にプランが具体化を帯び、明確なプランへ展開する。
- ・当初構想していたプランと異なるプランが実行され、次のプランに移行する際、当初のプランが行われる優先度は高い。
- ・プランの連続的の連続的な展開は、もととなるプランと矛盾しない方向性を持つ場合に行われる。

#### 3.4.6 被験者Fの歩行プランに関する分析

##### (1) 散策歩行概要

総合案内標識をもとに、照葉樹の森コースの涼しそうなイメージを得たことからコースを決定し、歩行を開始している。

最初の分岐にある案内標識を見落としたために、手持ち地図によってルートを確認して歩行を進める。さらに、歩行しながらコースを計画し、照葉樹の森コースを中心に、離れた屏風岩もみれるようなコースを計画する。

途中で七浦小学校と大聖院に寄っているが、その時点でも常に手持ち地図で現在位置を把握している。

高塚山を登るが、戻るルートが分からなくなり、登ったルートと異なるルートを迷いながら降りる。

山から下りた位置で、潮風王国の遠景を発見し、戻るポイントを確認する。当初予定していた、屏風岩の方面へは向かわず、潮風王国へと向かう。

この段階では開始地点を意識した歩行となり、その後は特に散策を展開することなく、結果的に、開始地点に最短となるようなルートを選択している。



## (2) プラン分析

散策に関連する行為を整理すると、被験者Eの散策は7のプランで構成されていることが分かる。(図4-19) これらのプランについて分析をする。

## ① プラン構成に関して

個別のプランは次のような構成となっている。散策開始地点(1)では、総合案内地図を前にコースを考察し、山がある照葉樹の森コースへ向かうという

LP	Time	Plan1	Plan2	Plan3	Plan4	Plan5	Plan6	Plan7	検討	確認	選択	評価	休憩	対象	行動内容・発言
1	0:00:00								検討					ルート	案内標識地図を見て、詳しく検討。
2	0:01:16								確認					エリア	遠くに見える山並みを見て、場所の確認。
3	0:01:40									選択				ルート	反対側の歩道(土がふついている)に移動。
4	0:02:10										正評価			看板	「ここになにかあったんですね」
5	0:02:20										正評価			小屋	「栽培している作業用小屋かなあ、」
6	0:02:50								確認					ルート	手持ち地図を取り出し歩きながら参照する。
7	0:03:40									選択				ルート	右折して照葉樹の森コースの方向へ(案内標識は見逃し)
8	0:04:00										正評価			石の置物	「これは何ですか? 石屋さんの作りかけ?」
9	0:04:20								確認					ルート	携帯地図を確認し、花壇の位置関係から正しいことを認識。
10	0:04:40								確認					エリア	行く先の山が見えているので方向は間違わない。
11	0:05:10									正評価				ビニールハウス	「これなんですか? ここに水流すのかな、ちがうよね?」
12	0:06:00									選択				ルート	案内標識を見て安心。
13	0:06:30								確認					現在地	手持ち地図を見ながら位置関係を把握。
14	0:06:35									選択				ルート	案内標識を見逃し
15	0:06:40								検討					ルート	歩きながら手持ち地図で時間を確認。所要時間を把握。
16	0:07:00								検討					ルート	手持ちマップでコースを計画
17	0:08:30										正評価			岩	1分30秒堪能
18	0:09:30								検討					ルート	屏風岩方面への計画を検討する。
19	0:10:30								確認					時間確認	案内標識を確認し左折
20	0:10:40									正評価				看板あと	電柱の案内を見て道路を渡る。
21	0:11:00									選択				ルート	左折して照葉樹の森コース入り口の方へ
22	0:11:50									正評価				石の置物	「すごいこれ、」
23	0:12:00									正評価				石の置物	「こんなところにも何かある。」
24	0:12:30								確認					ルート	分岐で目にした小学校に興味が引かれそのまま小学校へ行ってしまう。
25	0:12:40								確認					ルート	手持ち地図を見て確認。
26	0:13:00								確認					ルート	倒れた案内標識を見直し確認。
27	0:13:20									正評価				煙の缶	「これは何ですか? 熱いけど、いろいろな面白い物があって良いね。」
28	0:14:00									正評価				小学校	「暑いけどいろいろなものがあって良い。この小学校は、」
29	0:15:20									正評価				トマト	「あ、トマトだ。」
30	0:15:30									正評価				祠	「ここにもあるよ。」
31	0:15:40									正評価				竹垣	「あ、これ〜」
32	0:17:40									正評価				スポット	「あれなんだろう。書いてない。残念でした。」
33	0:17:55									選択				ルート	小さな丘の上に穴が開いていることを発見しそちらに向かう。
34	0:18:40									負評価				丘の上の穴	「ちょっと期待はずれ。奥にもっとあるかと思った。」
35	0:18:50									正評価				田園風景	山に見えた穴に向かってみる。穴から見下ろして景色を見る。
36	0:19:10									正評価				石の置物	「はー。これ穴開いてるし。なんだろうこれ。ここに何かを通すのかな?」
37	0:20:00									正評価				寺院	「あ、そうそうそう。ここまじけいれいね。」
38	0:23:00									正評価				案内標識	「どうすると・・・高塚山、奥の院。まあ良いや行くこ。」
39	0:24:00									正評価				山道	「涼しい、でもこの坂が。」
40	0:24:10									正評価				山道	「コンクリートはなんかなー。踏み面の距離が大きい。」
41	0:27:00									選択				ルート	近道にはいかず、正しい方向へ進んだ。
42	0:28:50												休憩		開けたところで休憩
43	0:30:45									負評価				山道	「今どこだろう。この中に入っちゃわからないうね。」
44	0:31:00								確認					間隔	「半分は来てるんですね。急に元気が出て来た。今度はゆっくりのペースで。」
45	0:32:00									正評価				山道	「(頂上は開けてると言う話から) あーそれはいいね。」
46	1:10:00									負評価				山道	「うーんなんかせつなく歩くんだったらなんか面白いもの見つけた方がよいね。」
47	1:15:40								確認					案内標識	案内標識までいき内容を確認
48	1:15:50								確認					時間	山頂方面へと向かう
49	1:16:00								確認					時間	2時間の範囲を考え、山頂は断念。
50	1:19:00								確認					ルート	案内標識を前に再度考え、ベンチに座って、手持ち地図で確認
51	1:20:00								確認					現在地	「僕の考えでは、今この辺かなと思うんですね。」
52	1:21:00								確認					ルート	頂上の方へ歩き出す。実験者の注意で正しい方向へ。
53	1:22:00									選択				ルート	「やっぱり同じ道はやだなと。」
54	1:23:40									正評価				山の遠景	「山が見える、もう少し開けていると良い。」
55	1:25:10									選択				ルート	「これは、どっちだろう。」
56	1:26:50								確認					ルート	「ほんとにこれ来てるんですね?」
57	1:30:40									選択				ルート	正しい下りのルートへ
58	1:34:20									正評価				山道	「あ、なんかいいなー」
59	1:35:20									正評価				山道	「あそこまで北回り下山して正解だ。でも頂上でいけなかったのは残念。」
60	1:40:00								確認					ルート	「どこかで何か見えた? 大丈夫かな?」
61	1:41:50									正評価				山道	「こーやって岩を削った所が良い」
62	1:42:00									正評価				堰	「川? 流れていたら気持ちいいけど、流れてない。」
63	1:43:10									正評価				山道	「上高地みたい」
64	1:44:10								確認					方向	「雲間気味にはこっちの方が出口に近いって事ですね。」
65	1:46:35									正評価				潮風王国	「あーでも、いいなあ! 帰って来たって感じがするね」
66	1:49:40								確認					スポット	「向こう行けば絶対着けるっていう感じ」
67	1:50:10								確認					間隔	「えーと、結局どこまで行ったんですね?」
68	1:55:10									選択				ルート	国道を渡り、民家につながる道の方に行くが断念。
69	1:55:40								検討					ルート	地図を取り出し経路確認
70	1:56:10									選択				ルート	国道から海岸へ出る道かと思ったが、民家の入り口であった。
71	1:56:40									選択				ルート	横断歩道を自印に、道を探すが、小さいため断念。
72	1:57:10									正評価				倉	「昔は駄菓子屋さんとか、そういう感じ?」
73	1:57:20									選択				ルート	バス停を手がかりに現在位置を地図で把握。
74	1:57:20								確認					現在地	「ここって、行きに迷ったかな?」
75	1:58:30									正評価				花	花を見つけて開心
76	1:59:30									正評価				トウモロコシ	「トウモロコシだ」
77	1:59:40								確認					ルート	分岐にさしかかり地図を見て方向を確認。地図を逆さまにしてみる。
78	2:01:10									正評価				塔	「あれべつに灯台じゃないから、」
79	2:01:50									選択				ルート	見直して経路選択
80	2:02:40								確認					スポット	カーブで潮風王国が目前に見えてくる
81	2:03:10									正評価				煙	「ネギ、ナス。何でもありですね。みんな味噌汁にはいる。」
82	2:03:30									正評価				スイカ	「あ、かわいい、スイカだ。」
83	2:03:50									正評価				水瓶	小屋を見つけてそのまま分岐
84	2:04:20								確認					間隔	あたりを見渡し、山を見る。
85	2:04:40									正評価				花	「あ、きれいきれい、花が。」
86	2:05:00									正評価				店舗	「お、あれれれれ、いきなり、お店があった。」
87	2:05:50									正評価				煙	「ちやうどいいくらいになってるな。」
88	2:06:40									正評価				小屋	「真っ黒い家だ。ちょっと暑そうだね。塗装が剥けてるみたい。」
89	2:07:40									選択				ルート	そのまま潮風王国方面へ曲がる

図4-19: 被験者E 散策構成行為整理表



プラント持つ (Pb-1)。しばらく案内に従ってルートを進んだ後 (18)、高塚山を越えた後に照葉樹の森コースから離れ屏風岩へと向かうというプランを持つ (Pb-2)。その後、案内標識に従ってルートを進み、七浦小学校 (24) へ入るというプランや (Pa-3) 大聖院 (37) へ入るというプラン (Pa-5) を経過した後、照葉樹の森コースを進行し高塚山を登る。登ったところ (53) で案内標識をもとに降りるルートを検討し、予定通り (Pb-2) 北側を回って屏風岩の方面へと向かうプランを持つ (Pb-5)。

しかし途中でルートを間違ふ事で時間を費やしてしまい、降りる途中で (65) 開始地点の潮風王国が見えたところから、屏風岩は断念して開始地点である潮風王国に戻るプランを持つ。(Pa-7)

## ② プラン系列に関して

プランを図式に整理すると、2つの系で構成され

ていることが分かる。1つが、ポイント1から53まで、もう一つが、53以降である。

最初の系①は、ポイント1にてプラン Pb-1 を構想し、そのまま実行する。途中で Pb-2 を構想するが Pb-1 実行の後に行う構想である。過程では、Pa-3 や Pa-4、Pa-5 を実行するが、どのプランも当初のプラン Pb-1 に対する影響はなく、そのまま Pb-1 を完了する。

53 以降の系②では、Pb-2 と同様の Pb-5 を構想し直しているが、途中で時間が不足し、ポイント 65 で開始地点を強く意識するような現場情報を得たため、Pa-5 を変更して Pb-6 実行している。

## ③ プラン展開のためのきっかけについて

被験者 E の散策は、被験者 D の散策と似た傾向を示し、散策は大きく展開していない。しかし、散策行為整理表を見ると、現場で得た情報に対する被験

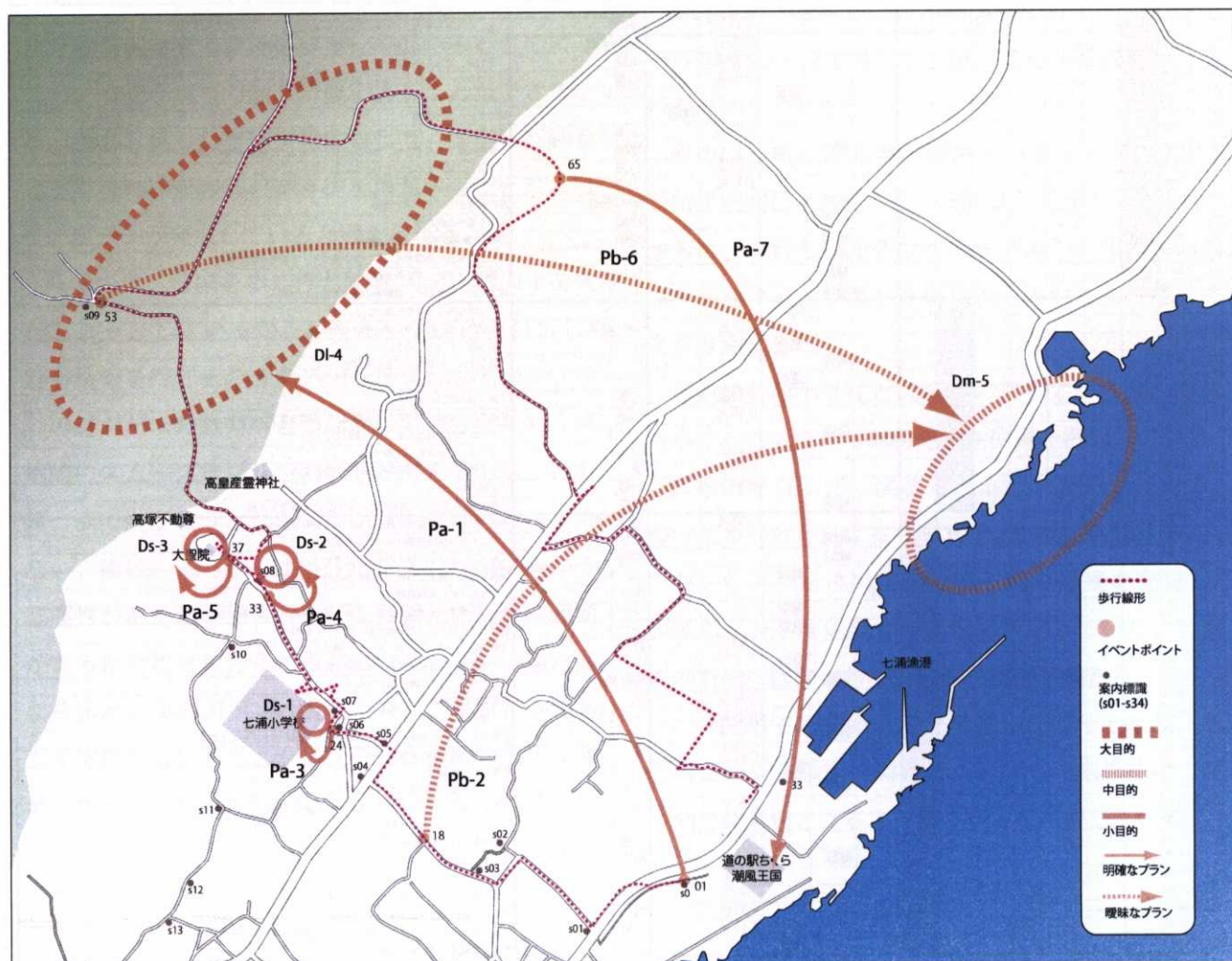


図 4-20: 被験者 F 散策マップ



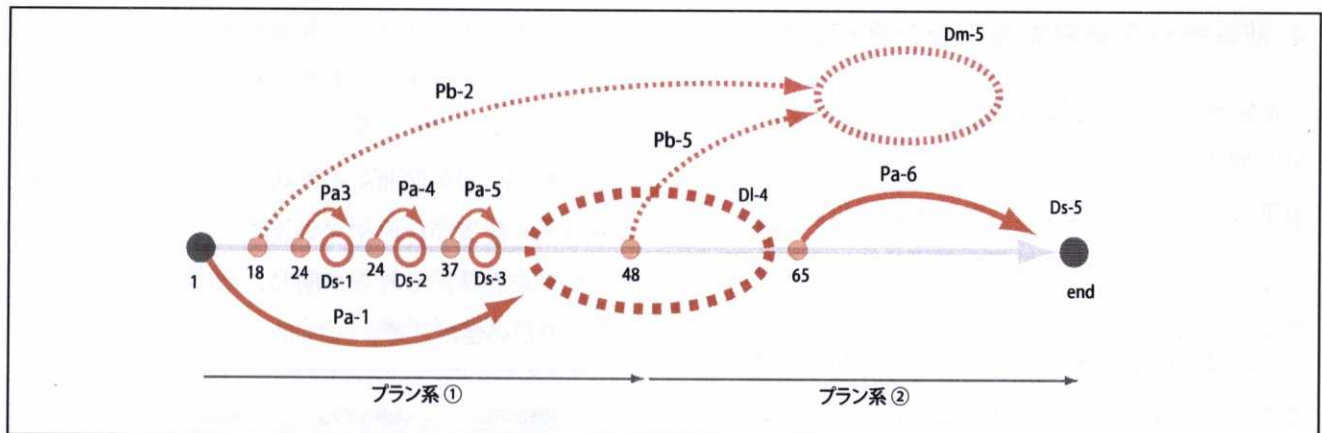


図 4-21：被験者 F 散策図式

者の評価は、おおむね正評価となっており、散策の歩行そのものは楽しんで行われていると判断できる。これまでの他の被験者の傾向では、現場情報に対して高評価をしている場合は、その場を起点に新たなプランが展開し、散策が拡大していたが、被験者 E ではそのようなことが見られない。この様な観点からプラン展開の要因に関して考察をする。

ポイント 1 にてコース選択のための魅力情報を得て、プラン Pb-1 を実行するが、このプランに強く関連づけられるようなプラン展開は行われず、ポイント 18 でプラン Pb-1 実行後のプラン Pb-2 を構想している。しかし、Pb-2 はもともと時間内に行うことが困難なプランであるため、実行できていない。Pb-1 の実行の過程で、Pb-2 の実行が困難であるような情報や、他のプランを構想しやすくするような魅力ある空間情報、また、他のエリアの魅力を伝える案内標識などが無いことが、新たなプラン展開がなされない要因と考えられる。そのような情報は、手持ち地図にて得てはいたものの、プラン構想に有効に反映していないことは、現場情報との関連づけ、具体的な手がかりが得られなかったことが要因だと考えられる。

一方、ポイント 65 では Pb-2 を実行していたはずであるが、最終的に戻る地点の視覚情報が遠景として視野に入り、即座にこれまでのプランを取りやめ、新たに戻るプランを構想することとなっている。現場情報の中でも、遠景に見える視覚情報は強く作用することが分かる。また、遠景に見えた視覚情報は、

プランの目的を確かなものとして示しているため、プラン実行中はゆとりを持って歩行を進めることが出来ている。散策行動整理表でも正評価が多く示されており、プランを新たに展開するものではないが、歩行は良好に実行されていたと云える。

#### ● プラン構成の特徴と展開のための情報

- ・ 手持ち地図で得られる情報は、現場情報と関係づけることで、実質的なプラン構想が可能になる。
- ・ 遠景として得られる視覚情報は、歩行目的になりやすい。
- ・ プランの目的が明確に分かる状況では、経路探索にゆとりが生じ、現場の様々な情報に注意を向け、楽しむことが出来る。

## 4. 散策歩行を展開するプラン構成のあり方

被験者A～Fの散策は、どれもそれぞれ特徴があり、同じ展開は一つとしてない。それらは、よく散策が展開したものもあれば、一つの散策の目的を達成することのみでほとんど広がりを見せないものもあった。

このような散策の傾向は、いくつかの類型に整理することが出来る。ここでは、このような類型を明らかにし、散策が発展するための散策プランのタイプのあり方を考察する。

### 4.1. 散策を形成するプランの類型

これまでの分析より、散策の展開図式は、形成するプラン系の構成によって、次の3つの型に整理して考えられる。

#### 4.1.1 ワンダー型 (W型) (図4-22)

ワンダー型とは、特に強い目的を持たず、目の前の景観や興味の対象に対して行動をとるプランの系あり方である。構成する個々のプランは行動の対象が目前にあるため、明確なプランとなる場合が多い。しかし、現在歩行を進めている状況に対し、即座にプランを構想して実行するため、計画性は少ない。いわば「行き当たりばったり」といった様相を示し、一見さまよっているかのような状況にも見られる。このことから、ワンダー型という名称としている。

W型は、一般的に言われる「散歩」をしている状態に近いと考えられる。しかし、初めて訪れる観光地では、環境に不慣れであるため、このようなプランでも行われることは容易ではない。

追跡調査では、被験者Aのプラン系①や、被験者Cのプラン系③に、この型は特徴的に現れている。しかし、被験者Cプラン系③でも見られたように、全く不慣れな環境では、結果的に迷うことになる可能性もあるため、分かりやすく範囲が限定された環境の中で、実行される可能性が高い。また、場当た

りであるため、プランが発展するかどうかは、その場の状況次第であり、必ずしも展開の可能性は高くない。

よって、W型を展開するためには、不慣れな環境においても散策が行いやすいように、既定のコースやエリアを設け、それらが閉じた環境とならないような工夫が必要だと考えられる。

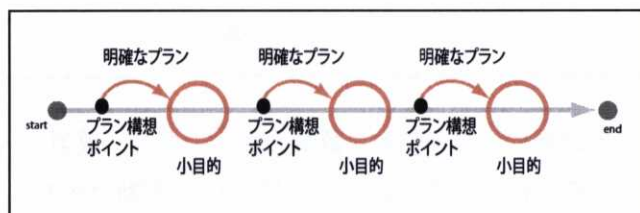


図4-22：ワンダー型

#### 4.1.2 オリエンテーリング型 (O型) (図4-23)

オリエンテーリング型は、現在地から離れたエリアやスポットまで向かおうとする散策プランの系である。プラン実現に対する志向が強く、目的を達成することに重点が置かれることに特徴がある。あたかも、競技のように歩行を進めるという意味で、オリエンテーリング型という名称としている。

追跡調査では、被験者DのプランPa-1に特徴的に現れている。この場合は、たった一つのプランで構成されているように系をなすこともなく、目的を達成したのみで散策を終えてしまっている。

このように、このプランの系では、散策が展開することは困難であるため、いかにオリエンテーリング型に終始しないようにするかが、散策の展開においては求められると云える。

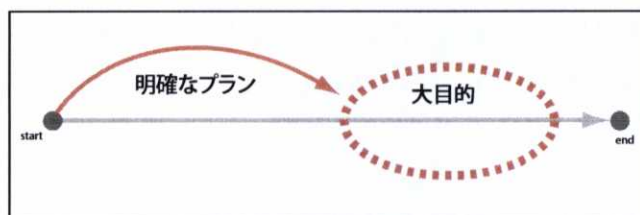


図4-23：オリエンテーリング型

#### 4.1.3 エクスプローラー型 (E型) (図4-24)

エクスプローラー型は、オリエンテーリング型と同様に、現在位置から離れたエリアやスポットまで



向かおうとする散策プランの系である。離れたところに向かうという意味ではO型と似ているが、プラン実行に対する強い目的意識はないため、実行のために既定のルートをとるといふ歩行はされない。また、プランの目的が明確になっていなくても、よくわからないけどとりあえず歩行を進められることが特徴である。このような特徴から、エクスプローラー型という名称としている。

追跡調査では、被験者Eのプラン系①や、被験者Cのプラン系①に特徴的に現れている。このプラン系の特徴は、離れた目的に向かうために、とりあえず歩行を進め、次第にプランが重層化していくことである。たとえば、被験者Cのプラン系①では、Pa-1というプラン実行に当たり、Pa-2、Pb-3、Pa-4といった複数のプランが重なり合い、最終的な目的を達成しているが、常にPa-1を意識しているわけではなく、ルート上のプランを進めていくうちに達成している。

このように、プランの連続的な発展を示す系として、エクスプローラー型のあり方は、散策を展開する上で非常に重要なあり方であると考えられる。

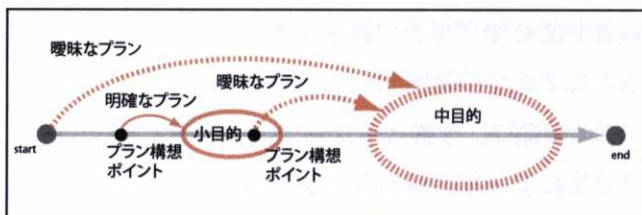


図4-24: エクスプローラー型

## 4.2. 地域観光で期待される散策の型

第3章の社会実験の調査で見られた散策のあり方も、ここで示した3つの類型で同様に整理されることが考えられる。つまり、富浦町で行われた駅からハイキングで見られた散策のあり方は、まさに、オリエンテーリング型の様相を示している。この歩行では、案内標識の誘導内容に沿って、既定のルートをとるものであり、離れたエリアまで歩行を進めてはいるものの、強い目的意識があることで達成されるものであった。そして、富浦町道の駅「枇杷倶楽部」

近辺の花畑で展開していた散策が、ここで言うワンダー型に該当すると考えられる。つまり、手近な範囲で、限定されたエリアの範囲を超えることなく歩き回る状態である。

第3章では、地域観光地において、なんらかの既定のプランがないと散策が展開されず、歩行者が現場情報との積極的な関係から、散策を行わない状態が、課題として明らかになっていた。つまり、このオリエンテーリング型、ワンダー型の散策から、エクスプローラー型の散策へと転換することが、地域観光の散策を実現させるために求められていると考えられる。

## 4.3. 散策を発展させるプランの複合的構成のあり方

3つのプランタイプのあり方では、散策を構成するプランの系が発展しやすい系と、発展しない系とに分かれることが分かる。そこで、事例をもとに、散策を発展させるために、プランの複合的な構成を実現化するための条件を考察する。

### 4.3.1 W型からE型へ

W型がそのまま単独でプラン系が構成されることがなく、より発展してE型となるためには次の2つの条件が必要だと考えられる。

#### (1) 離れた大きなプランがあること (図4-25)

被験者Aのプラン系①は、散策開始後すぐに大きなプランPb-1を実行でき、その中で小さなプランPa-2、Pa-3、Pa-4を実行し、ほぼその範囲内で収まり、新たな展開は少ない。一方、被験者Cのプラン系①も同様の海岸沿いを歩いているが、現在位置から離れたところに目的を設定したプランPa-1を実行しているため、その過程の小さなプランで終始することなく、次に散策が展開している。

この様に、小さなプランが一つのエリアにまとま

るのではなく、曖昧なプランであっても、それらを越えて離れた目的に対し、プランを構想することが必要である。

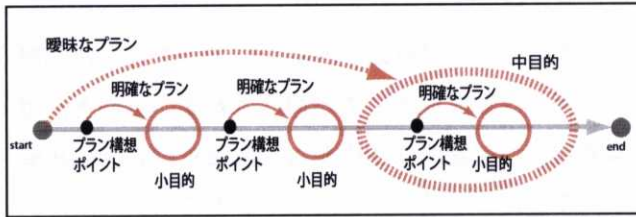


図 4-25: ワンダー型の変形

## (2) 小さな目的がエリアを離れてつながること (図 4-26)

一つのエリア内で魅力的なスポットが連続していると、被験者 A のプラン系①の様に、そのスポットのみをプランの小さな目的としてしまい、結局そのエリア内から出ることができない。被験者 E のプラン系②では、小さなプランが連続していることとは異なるが、小さなプラン Pa-6 を実行することで新たなエリアへはいることにつながり、散策は展開されている。

この様に、小さなプランでも、隣接するエリアとの境界を越えて構想されるプランが必要である。

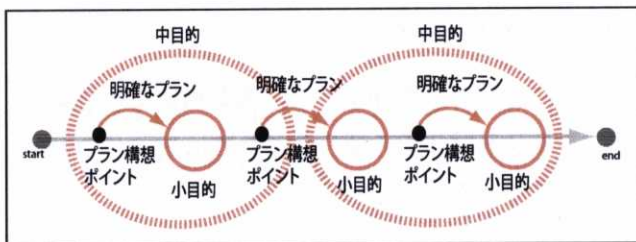


図 4-26: ワンダー型の変形

### 4.3.2 O 型から E 型へ

O 型は、名称の通り、散策と言うよりは競技のように行われてしまい、観光という目的とは多少異なる側面がある。これも、より発展して E 型となるためには、次の 2 つの条件が必要だと考えられる。

#### (1) 複数の目的を与えること (図 4-27)

O 型は被験者 D で特徴的に行われた散策であった。被験者 D は散策開始地点で直ぐに歩行の目的を決め、

その後の過程でも他の空間情報に対して気にすることなく歩行を行っている。この様に、明確なプランがそのまま実行されることが、オリエンテーリング型の特徴である。よって、その実行過程で、小さなプランが実行されることで、当初構想していた明確なプランが曖昧になることが考えられる。

つまり、O 型プランが散策として発展するためには、当初計画された O 型プランの実行過程で多くの現場情報を得て、小さな Pa を実行し、その空間体験をもとにして、O 型プランを再検討できるような、空間情報を体験することで得られるような機会があることが必要である。

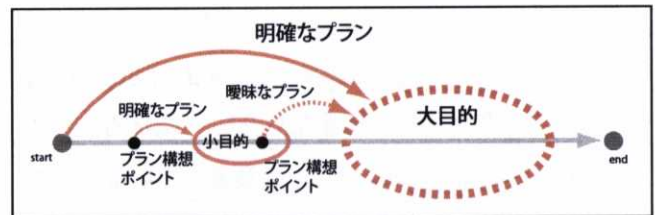


図 4-27: オリエンテーリング型の変形

#### (2) 目的を曖昧にすること (図 4-28)

被験者 D で O 型プランは特徴的に行われていたが、被験者 F も同様の傾向性を示していた。しかし、被験者 F は O 型プランで終始することなく、その他の小さなプランも複合的に行われていた。

この相違は、被験者 F は被験者 D と同様に明確なプランによって高塚山登山を目的としていたが、歩行してまもなく、その明確なプランの後の次のプランを手持ち地図で構想していた事による。

よって、当初のプランに対する目的意識が高くなっていたとしても、そのみに限定されないように、その次の目的を構想することが必要である。

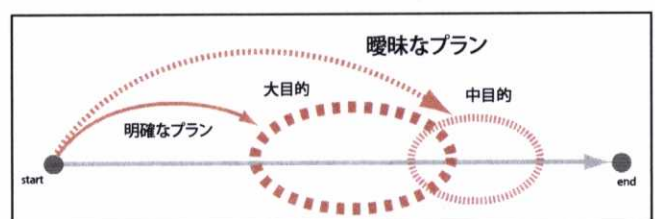


図 4-28: オリエンテーリング型の変形



## 5. 散策を促進する現場情報のあり方

### 5.1. 散策のプラン展開と現場情報の関わりの特徴

これまでの考察から、プラン展開の特徴と、現場情報の関わりについて、次のようなことが明らかになった。

#### (1) 散策開始地点で多様な現場情報の必要性

被験者 A,D のように、散策開始地点で様々な魅力情報を得られないと、プラン展開の可能性は低い。多くのプランの可能性を構想することで、被験者 E のように、散策の後半で実行されることもある。また、被験者 B,E のように、一つの明確なプランに固執することなく、曖昧なプランを多様に持つことが可能性の幅を広げている。

#### (2) プラン終了時における現場情報の必要性

被験者 B のように、一つのプランが終了する前に現場情報を得るとプランは次に展開していくが、被験者 A のように、得られないとプランは展開しない。

#### (3) 明確なプランの実行のための現場情報の必要性

明確なプランの実行では、被験者 C のように、大きな目的を構想していても、その実行の間に小さなプランを実行することで、目的がスポットではなくエリアへと変容しプランが発展する。また、明確なプランで、目的が手近な小さな対象であると、被験者 B のように連続的に展開する。しかし、被験者 C のように、明確なプランを連続的に展開した結果、正確な空間位置把握ができなくなることがあるため、現場情報と関係づけられるような情報提示が求められる。

#### (4) 曖昧なプランの実行のための現場情報との関係

被験者 C のように、曖昧なプランではとりあえずの歩行が行われるが、そうすることで、現場の空間情報を得て、次第にプランが具体化して明確なプランへと展開する。

その情報は、手近に具体化できるような魅力を感じるものである場合は、現在進行しているプランに優先して実行される。

#### (5) 現場情報の具体的展開

被験者 D,F のように、手持ち地図などで得られる情報は、現場の空間情報と関係づけられるようなきっかけがないとプランは具体化されず、展開しない。

#### (6) 遠景として得られる視覚情報の強さ

被験者 C,F で見られるように、遠景は散策の目的対象となりやすいが、目的歩行になりやすいため、幅広いプラン構想に必要な情報として、その他の魅力情報や間隔情報などの現場情報が、その目的到達までの間で得られることが必要である。

### 5.2. プラン複合化のための現場情報のあり方

散策がエクスプローラー型のプラン構成に発展するためには、プランの目的のあり方が重要である。この目的とは、現場で得られる情報を認識することによって、プランの対象として意識されるものであるから、現場情報のあり方は、プラン構想において強い影響があると考えられる。

W 型から E 型に展開するためには、W 型のプランで散策をしているということは、すでに限られたエリアで歩行を進めているわけであるから、その場で様々な現場情報を得ることが可能になっている。よって、そのエリアの現場情報に対し、案内標識などによってそのエリアを越えた場所の空間情報を伝え、関係づけられるような情報提示をすることが重要だと考えられる。

O 型から E 型に展開するためには、O 型のプランで散策を実行することが可能な状態であることは、現在いるエリアを越えた場所に関する情報は得られているわけであるから、その情報のみに集約されないように、その過程で体験できる空間の魅力に関する情報が得られるような情報提示が重要だと考えられる。

### 5.3. 散策を促進するための現場情報のあり方

散策が促進するためには、これまで考察してきたことをもとに、案内標識で伝える現場情報のあり方について考察する必要がある。よって、散策を促進するという観点から、プラン構想のためとプラン実現のための2つの機能に分けて基本的なあり方について考察をする。

#### 5.3.1 プラン構想のための基本的考え方

##### (1) 魅力情報

観光における散策プランの構想では、公園のように範囲が限られ、散策の対象がわかりやすい中で行われる散策と異なり、散策の対象を明らかにするための魅力情報の位置づけが大きい。空間情報や、案内情報から、散策対象地の魅力情報を得ることによって、初めて散策のプランを構想することができるからである。

よって、散策開始のポイントでは、様々な地域の魅力が分かるような情報提示が必要であり、このように集約して情報を伝える媒体として、案内標識は重要な役割を持つ。ここで伝えられる魅力情報は、あくまで歩行主体に間接的な情報を伝えることしかできないため、その情報が事実と異なって伝わらないようにする必要がある。

散策はこの様に得られた情報が具体化的に体験される過程とも考えられるが、離れた目的地を持った場合、魅力に対するイメージが、より近くのところで小さな目的となる空間情報からも得られることが望ましい。そうすることによって、イメージが増幅するとともに、具体化へ連続して展開することが可能になる。

しかし、そのような空間情報が適切に配置することは現実的には困難である場合も多い。そのような、空間情報が希薄になるような場合は、案内標識によって魅力情報を伝える必要がある。

また、魅力情報は、一つだけでなく複数あることでプランも多様に広げることが可能になるため、適切な表示方法で行うことも重要である。

##### (2) 間隔情報

観光における散策は、歩行距離も長くなり、プランの目的となる対象スポットやエリアも遠く離れることが多い。不慣れな空間において、こうした空間的な離れ具合に関する把握は、プランを構想するため非常に重要である。

散策の開始ポイントや、新しいプランを構想するポイントでは、こうした間隔情報に関する情報が求められる場合が多い。しかし、このような場所では、地図による理解や、距離や時間などの抽象的な理解以外に方法がないため、実体感が伴わず正しく認識することは困難であることも多い。

そのため、ルート上で、散策の目的となるような対象が直接見えるような位置に、そこまでの距離や歩行時間などの間隔情報がその都度表示され、歩行を実行しながら感覚が把握できるような、実体感を伴った情報理解が出来る表示方法が望ましい。

##### (3) 地図情報

地図情報は、第1章や2章の調査分析でも効果が確認されており、歩行を行うための空間情報把握に必要な不可欠なものである。観光における散策では、単に地理的な位置関係だけでなく、上記の魅力情報や、間隔情報が地図上に示され、空間情報把握と同時に散策のプランが構想しやすいような情報提示が必要だと考えられる。

散策開始のポイントでは、多くのプラン構想の可能性を広げるために、上記の様々な情報が整理された地図情報が必要である。さらに、プラン実行のルート上でも地図情報は求められる。特に、散策がW型からE型に発展するためには、小さなエリアを散策するプラン実行の後に、大きなエリアにおける位置関係を把握する必要がある。そして、空間の魅力が集中するようなエリアの近くでは、周辺の空間の位置関係が示される地図情報を提示することも、重要だと考えられる。



## 5.3.1 プラン実行のための基本的考え方

## (1) 方向情報

プランを実行する過程で、間違いなく歩行を進めるために必要な情報である。特に、離れたスポットやエリアに対して歩行を進める場合は重要である。視界が開けているような場合では、空間情報から方向情報は得られるが、視界が開けてない場合や、ルートが複雑な場合は、案内標識による方向情報が重要な働きを持つ。

## (2) 接続情報

プラン実行する際に、すぐに必要となる情報であり、プランで目的とする場所に対して適切に誘導するものである。この情報が適切に歩行者に伝わらないと、構想されたプランが間違っ行われ、歩行者の散策に対するイメージを損なうこととなる。

多くは道の分岐などでルートを選択する判断のための情報となるが、分岐の手前であらかじめ接続情報を伝えることで、スムーズなルート選択が可能になる。

## 6. 本章のまとめと今後の課題

本章では、千倉町の里山遊歩道周辺を対象とした、散策型観光に関する被験者を用いた利用実験調査によって、地域観光地における散策歩行の特性を明らかにし、さらに散策が展開するための現場情報の基本的あり方を考察した。

散策歩行では、3つの特性があることが明らかになり、その特性によって、ワンダー型、オリエンテering型、エクスプローラ型として分類することが出来た。この中でも、地域観光においては、エクスプローラ型による散策の展開が求められる散策のあり方であり、この特性を実現するための手がかりとして、現場情報のあり方を、情報の類型に応じて考察し、案内標識で提示する現場情報の内容の基本的な考え方を整理することが出来た。

これらのことは、従来、把握できていなかった地域観光における散策歩行の実態に即した、案内標識の基本的なあり方を整理することが出来たが、詳細には不明な要素も多い。

つまり、エクスプローラ型の散策が展開されるためには、現場情報の中でも、空間の魅力情報の伝え方が重要であることは明らかになっているが、その魅力情報がどのように散策の展開に作用し、より効果的に機能するためには、どのように提示することが求められるのかは明らかになっていない。よって、今後は、その空間の魅力情報の提示と散策の展開について焦点を絞り考察を進める。

## 参考文献

- \*1) 海保博之，原田悦子：プロトコル分析入門，発話データから何を読むか，pp124，新曜社，1993
- \*2) 大野隆造，串山典子，添田昌志：上下方向の移動を伴う経路探索に関する研究，日本建築学会計画系論文報告集，NO.516，pp.87～91，1999.3
- \*3) 徐華，松下聡，西出和彦：認知地図の特性，日本建築学会計画系論文集，NO.545，pp.173～180，2001.7
- \*4) 日色 真帆，原 広司，門内 輝行：迷いと発見を含んだ問題解決としての都市空間の経路探索，日本建築学会計画系論文集，NO.466，pp.65～74，1994.12